

JEPA-XSPAセミナー

JST: 日本の学術論文出版について - J-STAGE及びJxivを通して -

令和5年11月21日



科学技術振興機構

目次

1. 科学技術振興機構(JST)について
2. JSTの情報事業について
3. J-STAGEについて
4. J-STAGE Data、Jxivについて
5. 全文XML化の取り組み

目次

1. 科学技術振興機構(JST)について
2. JSTの情報事業について
3. J-STAGEについて
4. J-STAGE Data、Jxivについて
5. 全文XML化の取り組み

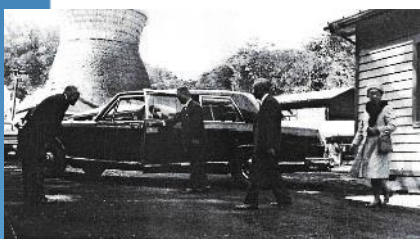
特殊法人

独立行政法人

国立研究開発法人



- 1957 JICST設立
- 1961 委託開発 発足
- 1976 JOISサービス提供開始
- 1981 ERATO 発足
- 1986 GaN系青色発光ダイオードの開発
- 1991 さきがけ 発足
- 1995 CREST 発足
- 1996 理解増進事業 開始
- 2001 日本科学未来館 開館
- 2001 野依良治博士 ノーベル化学賞
- 2004 透明アモルファス酸化物半導体の発見
- 2012 山中伸弥博士 ノーベル医学・生理学賞
- 2014 赤崎・天野・中村博士 ノーベル物理学賞
- 2016 JST創立 20周年



松川地熱発電所(委託開発の成果)にご来臨の天皇后陛下



皇太子殿下 ERATO新海プロジェクト訪問



科学技術振興事業団発足



日本科学未来館開館



山中伸弥博士、ノーベル医学・生理学賞を受賞

1961

2003
第1期

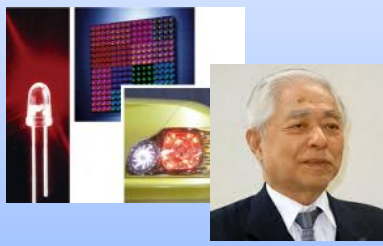
2007
第2期

2012
第3期

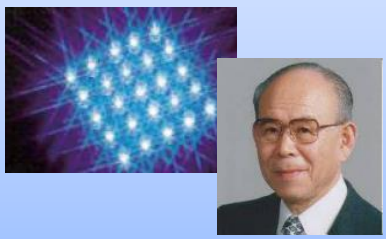
2017
第4期

2022

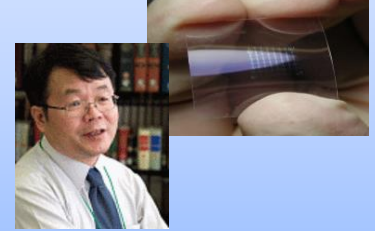
1972
高輝度赤色発光ダイオード
(委託開発)
東北大学 西澤潤一 教授 他
/ スタンレー電気(株)



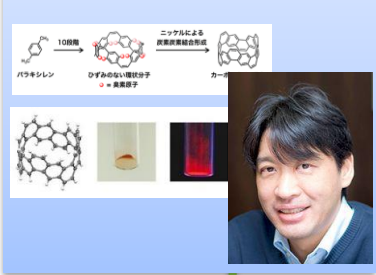
1986
青色発光ダイオード
(委託開発)
名古屋大学 赤崎勇 教授
/ 豊田合成(株)



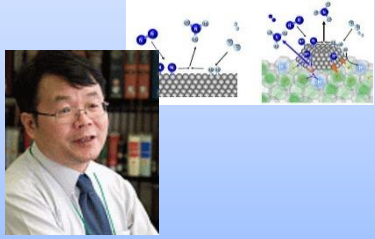
2005
透明酸化物半導体の発見～
IGZOの実用化へ
(ERATO/SORST/ACCEL)
東京工業大学 細野秀雄 教授



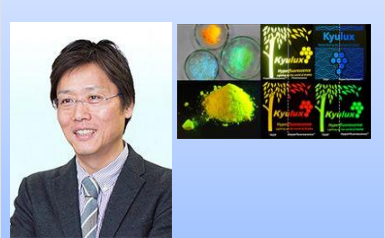
2017
カーボンナノベルトの合成
に成功 (ERATO)
名古屋大学 伊丹健一郎 教授



2018
アンモニア合成法の技術革新
(ERATO/SORST/ACCEL)
東京工業大学 細野秀雄 教授



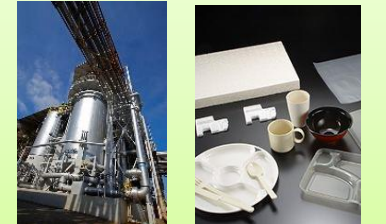
2019
革新的な有機EL材料とデバイス
群 (CREST/ERATO/A-STEP)
九州大学 安達千波矢 教授



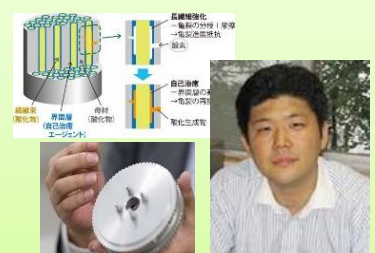
1994
ホログラフィ電子顕微鏡の
高度化 (ERATO)
(株)日立製作所 外村彰
主管研究長



2014
多用途の生分解プラスチックの
実用化に目途 (委託開発)
株式会社カネカ/高輝度光科学
研究センター 土肥義治 理事長



2017
自己修復するセラミックス
(ALCA)
横浜国立大学 中尾航 教授



2019
乗用車用エンジンの熱効率
50%超を達成 (SIP)
慶應義塾大学 飯田訓正 教授
他3名





1961

2003
第1期

2007
第2期

2012
第3期

2017
第4期

2022

2011
「動くハザードマップ」と
防災教育 (RISTEX)
群馬大学 片田敏孝 教授

2016
失われる文化財をクローン文化財で
救う (COI)
PM (株)JVCケンウッド 山本耕志 PM
プロジェクトリーダー
東京藝術大学 宮廻正明 研究リーダー

2019
熊本城「石垣照合システム」を開発
(A-STEP)
熊本大学 / 凸版印刷

2012
触った感覚も伝わる分身ロボットの
実現へ (CREST/ACCEL)
東京大学 舘暲 名誉教授

2017
クフ王のピラミッド内に巨大空間
を発見：宇宙線ミュオンによる
投資技術の開発 (先端計測)
名古屋大学 中村光廣 教授

2020
近未来の感染症を予測・制御
(さきがけ/RISTEX/CREST)
北海道大学 西浦博 教授

2014
台風・ゲリラ豪雨を早期に予測
(CREST)
理化学研究所 三好建生 チーム
リーダー

2017
未来型情報環境の実現
(CREST/ACCEL)
東京大学 石川正俊 教授

2019
対話感を深めるロボット技術
(CREST/ERATO)
大阪大学 石黒浩 教授

※所属は全て
課題実施当時

1961

2003
第1期

2007
第2期

2012
第3期

2017
第4期

2022

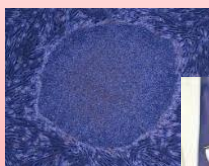
1993

リン脂質極性基を有するポリマー(委託開発)
東京医科歯科大学 中林宣男 教授 他/ 日油(株)



2006

iPS細胞の樹立(CREST)
京都大学 山中伸弥 教授



2013

がん細胞のみを狙いうち!
分子標的療法で実現
(CREST/研究加速)
東京大学 間野博行 教授



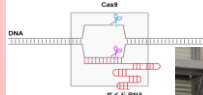
2013

人間と調和する有機デバイス
東京大学 染谷隆夫 教授
(CREST/ERATO)

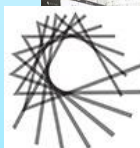


2017

DNAを切る「はさみ」の
構造を解明(さきがけ)
東京大学 西増弘志 助教



2006-継続中
サイエンスアゴラの開催



SCIENCE AGORA

2017
ジェンダーサミット10を開催



2018
SDGs報告書
「Books of Japan's Practices for SDGs」



2019
輝く女性研究者賞
(ジュン アシダ賞)



2019
病気の予防に焦点を絞った医療
を確立(COI)
工藤寿彦 マルマンコンピュータ
サービス(株) 常務取締役
中路重之 弘前大学 特任教授



ノーベル賞



2001
化学賞
野依良治



2012
医学・生理学賞
山中伸弥



2014
物理学賞
赤崎勇/天野浩/中村修二



2011
ガードナー国際賞
審良静男



2015
ガードナー国際賞
坂口志文



2016
日本国際賞
細野秀雄

2015
トムソン・ロイター「Top100 グローバル・イノベーター 2015」
日本の公的機関ではJSTが初受賞



2017
ロイター「TOP25 グローバルイノベーター2017：国立研究機関」
JSTが世界第4位（国内1位）

2019
イノベーションをけん引する世界の国立研究機関ランキング
世界4位（国内1位）

REUTERS The World's Most Innovative Research
TOP 25 Institutions 2019

4 Japan Science & Technology Agency (JST)
JAPAN

TOTAL PATENTS FILED: 319

Number of basic patents (patent families) filed by the institution between 2012 and 2017

Semiconductor & Electrical components

Chemicals

Agriculture, forestry & food

Consumer products

Pharmaceuticals & biotech

Others

0 25 50 75 100%

SUCCESS RATE: 73.0%

Ratio of patents filed by the institution between 2012 and 2017 that were subsequently granted by patent offices

0 25 50 75 100%

COMMERCIAL IMPACT SCORE: 72.9

Indicator of how often basic research originating at an institution has influenced commercial R&D activity, as measured by academic papers cited in patent filings. Higher scores are better.

0 25 50 75 100

AVG: 43.8

72.9

100

Data provided by Clarivate Analytics. For a detailed methodology, see [here](#)

For reprints, e-prints, logo and accolade licensing, permissions and plaques and other products please visit [PARIS International Corp.](#)



<https://graphics.reuters.com/AMERS-REUTERS-RANKING-INNOVATIVE-INSTITUTIONS/0100B2B11D7/index.html>

研究開発の成果

<p>ライフサイエンス New</p> <p>新型コロナウイルスの世界最速検出装置を開発 遠藤 力也(理化学研究所 主任研究員)</p>	<p>ナノテクノロジー・材料 New</p> <p>世界に先駆けるトポロジカル反強磁性体の研究 中辻 和(東京大学トランススケール量子科学国際連携研究機構 機構長)</p>	<p>ナノテクノロジー・材料 New</p> <p>プラスチックを肥料に変換するリサイクルシステムを開発 香木 大輔(千葉大学 大学院工学研究 院 准教授)</p>
<p>情報通信 New</p> <p>公平な資源分配メカニズムの構築で多くの人を幸せに導く 五十嵐 歩美(東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授)</p>	<p>情報通信 New</p> <p>世界初、半導体スピン量子ドット(人工原子)の作製に成功 博菜 清博(理化学研究所 創発物性科学 研究センター グループディレクター)</p>	<p>ナノテクノロジー・材料 New</p> <p>世界に先駆ける超伝導量子ビットの研究を展開 中村 泰信(東京大学 大学院工学研究 科 教授/理化学研究所 量子コンピュ ータ研究センター センター長)</p>
<p>情報通信 New</p> <p>「万有情報網」を構築し人々に 快適な技術を創成 川原 主博(東京大学 大学院工学系研 究科 教授)</p>	<p>情報通信 New</p> <p>数学的アプローチで究極の 安全性を保證 進尾 一郎(国立情報学研究所 アーキ テクチャ科学研究所 教授)</p>	<p>ライフサイエンス New</p> <p>人間とロボット・AIの協働で iPS細胞を培養 高橋 恒一(理化学研究所 生命機能科 学 研究センター チームリーダー)</p>
<p>ライフサイエンス New</p> <p>プラスチック原料を生成する ラン藻の代謝メカニズムを探 求 小山内 崇(明治大学 農学部 専任准 教授)</p>	<p>ナノテクノロジー・材料 New</p> <p>金属の強度特性を保つ低温 接合を実現 藤井 英俊(大阪大学 接合科学研究所 教授)</p>	<p>情報通信 New</p> <p>量子光のパルス波形を自在 に制御する手法を開発 古澤 明(東京大学 大学院工学系研究 科 教授/理化学研究所 量子コンピュ ータ研究センター 副センター長)</p>
<p>ライフサイエンス New</p> <p>青森発、産学官民連携で超高 齢化社会に挑む 工藤 寿彦(プロジェクトリーダー:マ ルマンコンピュータサービス株式会 社) 中野 重文(研究リーダー:弘前大学 特任教授) 村下 公一(戦略統括:弘前大学 教 授)</p>	<p>環境・エネルギー New</p> <p>デバイス製造装置向け排ガ ス除害装置の開発 開発実施企業:カンケンテクノ株式会 社 代表研究者:一木 隆範(東京大学 大学院 工学系研究科 教授)</p>	<p>社会技術・社会基盤 New</p> <p>国境を越えて防災・減災に大 きく貢献 伊藤 喜宏(京都大学 防災研究所 准 教授)</p>
<p>社会技術・社会基盤 New</p> <p>脳科学で親子のつながりを解 き明かす 黒田 公美(理化学研究所 脳神経科学 研究センター 親和性社会行動研究チ ーム チームリーダー)</p>		

JST
 Japan Science and Technology Agency
 成果集 2023

本部 〒332-0012 埼玉県川口市本町4-1-8 川口センタービル
 Tel. 048-226-5601
 東京本部 (サイエンスプラザ) 〒102-8666 東京都千代田区西船場5-3 サイエンスプラザ
 Tel. 03-5214-8401
 東京本部別館 (K's5船場) 〒102-0076 東京都千代田区五船場7 K's5船場
 Tel. 03-3512-3541
 九段オフィス (丸の内センタービル) 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 九段センタービル
 日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6
 Tel. 03-3570-9151
 HP <https://www.jst.go.jp/>
 Twitter https://twitter.com/JST_info
 成果集 <https://www.jst.go.jp/seika/>

<https://www.jst.go.jp/seika/>

科学技術振興機構に係る政策体系上の位置付け

科学技術・イノベーション基本計画の実施において中核的な役割を担う機関

科学技術・イノベーション基本法

第6期科学技術・イノベーション基本計画

(Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策)

- ①国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会への変革
- ②知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化
- ③一人ひとりの多様な幸せ(well-being)と課題への挑戦を実現する教育・人材育成

国立研究開発法人科学技術振興機構法

(機構の目的)

第4条 国立研究開発法人科学技術振興機構(以下「機構」という。)は、新技術の創出に資することとなる科学技術に関する基礎研究、基盤的研究開発、新技術の企業化開発等の業務、国立大学法人(国立大学法人法(平成15年法律第112号)第2条第1項に規定する国立大学法人をいう。第23条第5号において同じ。)から寄託された資金の運用の業務、大学に対する研究環境の整備充実等に関する助成の業務及び我が国における科学技術情報に関する中枢的機関としての科学技術情報の流通に関する業務その他の科学技術の振興のための基盤の整備に関する業務を総合的に行うことにより、科学技術の振興を図ることを目的とする。

科学技術振興機構 中長期目標

1. 社会変革に資する研究開発戦略の立案と社会との共創
2. 社会変革に資する研究開発による新たな価値創造の推進
3. 新たな価値創造の源泉となる研究開発の推進
4. 多様な人材の支援・育成
5. 科学技術・イノベーション基盤の強化
6. 大学ファンドによる世界レベルの研究基盤の構築

JSTの中長期目標における柱建てと事業について

科学技術・イノベーションの総合的な推進機関として、基礎研究から実用化まで一貫した研究開発の支援とともに、我が国の強みを支える科学技術基盤の強化を目指す。令和5年度においては、「第6期科学技術・イノベーション基本計画」、「統合イノベーション戦略2022」等を踏まえ、変容する社会に対応し、イノベーションにつながる新たな潮流を生み出す独創的なネットワーク型研究所として、知の創造と経済・社会的価値への展開等の推進に積極的に取り組む。

設立年月日：平成15年10月1日
理事長：橋本 和仁
役員数：理事長1名、運用業務担当理事1名、理事4名、監事2名
常勤職員数：1,396名（令和5年4月1日時点）

令和5年度予算額
 運営費交付金 1,005億円、施設整備費補助金 4億円
 ※基金事業（創発的研究支援事業、次世代研究者挑戦的研究プログラム、ムーンショット型研究開発事業、経済安全保障重要技術育成プログラム、大学発新産業創出基金事業、先端国際共同研究推進事業、革新的GX技術創出事業）及び大学ファンドに係る予算は含まない

■ 社会変革に資する研究開発戦略の立案と社会との共創 6,319百万円

- 研究開発戦略センター(CRDS)事業
- アジア・太平洋総合研究センター(APRC)事業
- 低炭素社会戦略センター(LCS)事業
- 未来共創推進事業
- 社会技術研究開発事業



■ 社会変革に資する研究開発による新たな価値創造の推進 22,707百万円

- 共創の場形成支援
- 大学発新産業創出プログラム(START)
- 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)

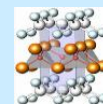


青色LED
 (2014ノーベル物理学賞)

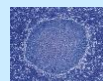
- 以下は文部科学省からの補助金により基金を造成して実施
- 大学発新産業創出基金事業
 - ムーンショット型研究開発事業
 - 経済安全保障重要技術育成プログラム
 - 革新的GX技術創出事業(GteX)

■ 新たな価値創造の源泉となる研究開発の推進 53,809百万円

- 戦略的創造研究推進事業(新技術シーズ創出)
- 戦略的創造研究推進事業(先端的脱炭素化技術開発)(ALCA-Next)
- 未来社会創造事業



新しい高温超電導物質の発見



ヒトiPS細胞を樹立
 (2012ノーベル生理学・医学賞)

■ 多様な人材の支援・育成 4,455百万円

- スーパーサイエンスハイスクール支援
- 科学技術コンテストの推進
- 大学等と連携した科学技術人材育成活動の実践・環境整備支援
- プログラムマネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム
- 研究公正推進事業



以下は文部科学省からの補助金により基金を造成して実施

- 創発的研究支援事業
 - 博士後期課程学生の処遇向上と研究環境確保
- ※次世代研究者挑戦的研究プログラムとして

■ 科学技術・イノベーション基盤の強化 9,136百万円

- 科学技術情報連携・流通促進事業
- ライフサイエンスデータベース統合推進事業
- 研究人材キャリア情報活用支援事業



- 戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)
- 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)
- 国際青少年サイエンス交流事業

- 以下は文部科学省からの補助金により基金を造成して実施
- 先端国際共同研究推進事業



■ 大学ファンドによる世界レベルの研究基盤の構築

JST概要

■ 科学技術・イノベーション基盤の強化

- 科学技術情報連携・流通促進事業
- ライフサイエンスデータベース統合推進事業
- 研究人材キャリア情報活用支援事業
- 戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)
- 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)
- 国際青少年サイエンス交流事業
- 先端国際共同研究推進事業

資する
略の
との

社会変革に資する
研究開発による
新たな価値創造の
推進

■ 社会変革に資する研究開発戦略の立案と社会との共創

- 研究開発戦略センター(CRDS)事業
- アジア・太平洋総合研究センター(APRC)事業
- 低炭素社会戦略センター(LCS)事業
- 未来共創推進事業
- 社会技術研究開発事業

■ 社会変革に資する研究開発による新たな価値創造の推進

- 共創の場形成支援
- 大学発新産業創出プログラム(START)
- 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)

- 大学発新産業創出基金事業
- ムーンショット型研究開発事業
- 経済安全保障重要技術育成プログラム
- 革新的GX技術創出事業(GteX)

■ 新たな価値創造の源泉となる研究開発の推進

- 戦略的創造研究推進事業(新技術シーズ創出)
- 戦略的創造研究推進事業(先端的脱炭素化技術開発)(ALCA-Next)
- 未来社会創造事業

科学技術・
イノベーション基盤
の強化

新たな価値創造の
源泉となる
研究開発の推進

多様な人材の
支援・育成

■ 多様な人材の支援・育成

- スーパーサイエンスハイスクール支援
- 科学技術コンテストの推進
- 大学等と連携した科学技術人材育成活動の実践・環境整備支援
- プログラムマネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム
- 研究公正推進事業

- 創発的研究支援事業
- 博士後期課程学生の処遇向上と研究環境確保
※次世代研究者挑戦的研究プログラムとして

目次

1. 科学技術振興機構(JST)について
2. JSTの情報事業について
3. J-STAGEについて
4. J-STAGE Data、Jxivについて
5. 全文XML化の取り組み

JST情報事業



第5期中長期計画では6本の柱の中の「科学技術・イノベーション基盤の強化」の中で「情報基盤の強化」として位置付けされている。

5. 科学技術・イノベーション基盤の強化

社会変革や新たな価値創造に向けた我が国の研究開発成果の最大化に貢献するためには、国内外の動向を踏まえたうえで、研究開発の共通基盤を構築・強化する必要がある。そのため、科学技術・イノベーションの創出に必要な不可欠な役割・機能を担っている情報基盤の強化を行い、多様な知を最大限に活用することにより、研究開発成果の最大化に貢献する。また、国際共同研究や交流の促進により、社会変革に向けた研究開発の共通基盤を構築・強化する。

5. 1. 情報基盤の強化

オープンサイエンスの世界的な潮流を踏まえつつ、論文や研究データを含む科学技術情報の効果的な活用と、国内学協会等による研究成果の国内外に向けた発信が促進される環境を構築し、科学技術情報の流通を促進する。また、組織や分野の枠を越えた研究者・技術者間の人的ネットワークの構築を促進するとともに、我が国の研究力の分析・評価に資するため、研究者・技術者等に関する情報を幅広く活用できる環境を整備する。

ライフサイエンスデータベース統合の推進については、ライフサイエンス研究開発全体の活性化に貢献するため、文部科学省が示す方針の下、研究開発成果が広く研究者コミュニティに共有・活用されるよう、利用者ニーズを踏まえた研究開発等を通して、データベース統合を進める。

また、科学技術・イノベーションの創出を担う博士課程学生や研究者・技術者等、高度人材のより多様な場での活躍及び流動を促進するため、産学官連携の下、キャリア開発に資する情報の提供を行う。

なお、これらの取組を進めるため、産学官の機関との連携を一層推進するとともに、常に利用者のニーズや国内外の動向を把握し、利用者目線に立ってサービスの利便性向上を図る。

JST情報事業は、オープンサイエンスの世界的な潮流を踏まえつつ、科学技術情報の流通を促進する。また、我が国の研究力の分析・評価に資するため、研究者・技術者等に関する情報を幅広く活用できる環境を整備する。

※オープンサイエンスとは、公的研究資金を用いた研究成果について、科学界はもとより産業界および社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能にし、知の創出に新たな道を開くとともに、効果的に科学技術研究を推進することで、イノベーションの創出につなげることを目指した新しいサイエンスの進め方を意味する。

(出典：内閣府総合科学技術・イノベーション会議 2015年3月30日付「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書)

情報基盤の強化

科学技術情報連携・流通促進事業

(※件数等は令和5年3月31日現在)

基本情報の整備・連携活用システム等の整備

研究者、研究機関、論文、特許などの科学技術に関する基本情報を整備するとともに、関連情報をリンクさせた横断的な検索や分析を可能とするシステムを一般に提供。様々なユーザがインターネットから分野や業種の垣根を越えて科学技術情報を利用できる環境を整備

DOI登録システム



国内学術コンテンツの国際的流通を促進するため、国際的な識別子DOIの登録システムを開発・運用



科学技術情報総合検索サービス

論文

論文の書誌情報

(書誌情報: 約6,253万件)
書誌情報= 題名、著者名、発行年月日、巻号、発行国等の情報

関連情報間のリンク

特許

国内特許

1993年以降の国内特許約1,509万件を収録

ファンド情報

GRANTS

研究課題統合検索

JST

プロジェクトデータベース

関連情報の連携

DOI登録

論文 電子情報発信・流通促進

論文プラットフォーム

国内学協会誌の電子ジャーナル化を支援し、我が国の科学技術論文情報の発信の迅速化と国際化を図る(2,225学協会、3,756誌参加)

J-STAGE

Jxiv

日本で初めての本格的なプレプリントサーバとして、未発表のプレプリント(査読前論文)をオープンアクセスで公開(令和3年度末運用開始)

論文の全文情報とのリンク

研究者 研究者情報の流通促進

研究者検索サービス

researchmap

研究者

研究者情報

(国内研究者情報: 約35万人)

関連情報間のリンク

論文 科学技術文献情報提供事業

国内外の科学技術情報へ継続的にアクセスできるように、データ(論文の要約等)を整備し、我が国における効率的な研究開発活動を支援している。



ライフサイエンスデータベース統合推進事業

バイオサイエンスデータベースセンター
National Bioscience Database Center (NBDC)



○All JAPANとしてライフサイエンス知的基盤の構築
○各種バイオサイエンス関連機関やプロジェクトとの連携

研究人材キャリア情報活用支援事業



研究者・研究支援者・技術者等の研究人材のキャリア形成・能力開発を情報面から支援する研究人材のためのポータルサイト

目次

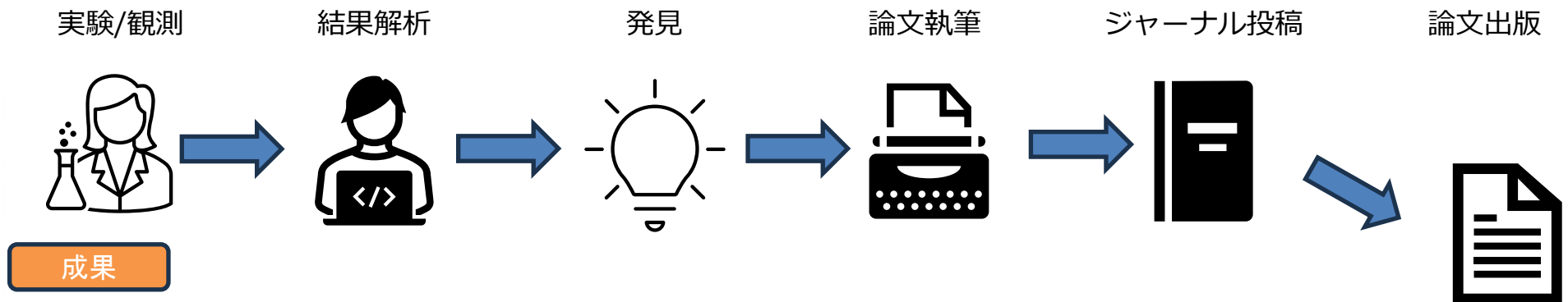
1. 科学技術振興機構(JST)について
2. JSTの情報事業について
3. J-STAGEについて
4. J-STAGE Data、Jxivについて
5. 全文XML化の取り組み

学術論文について

学術論文出版①

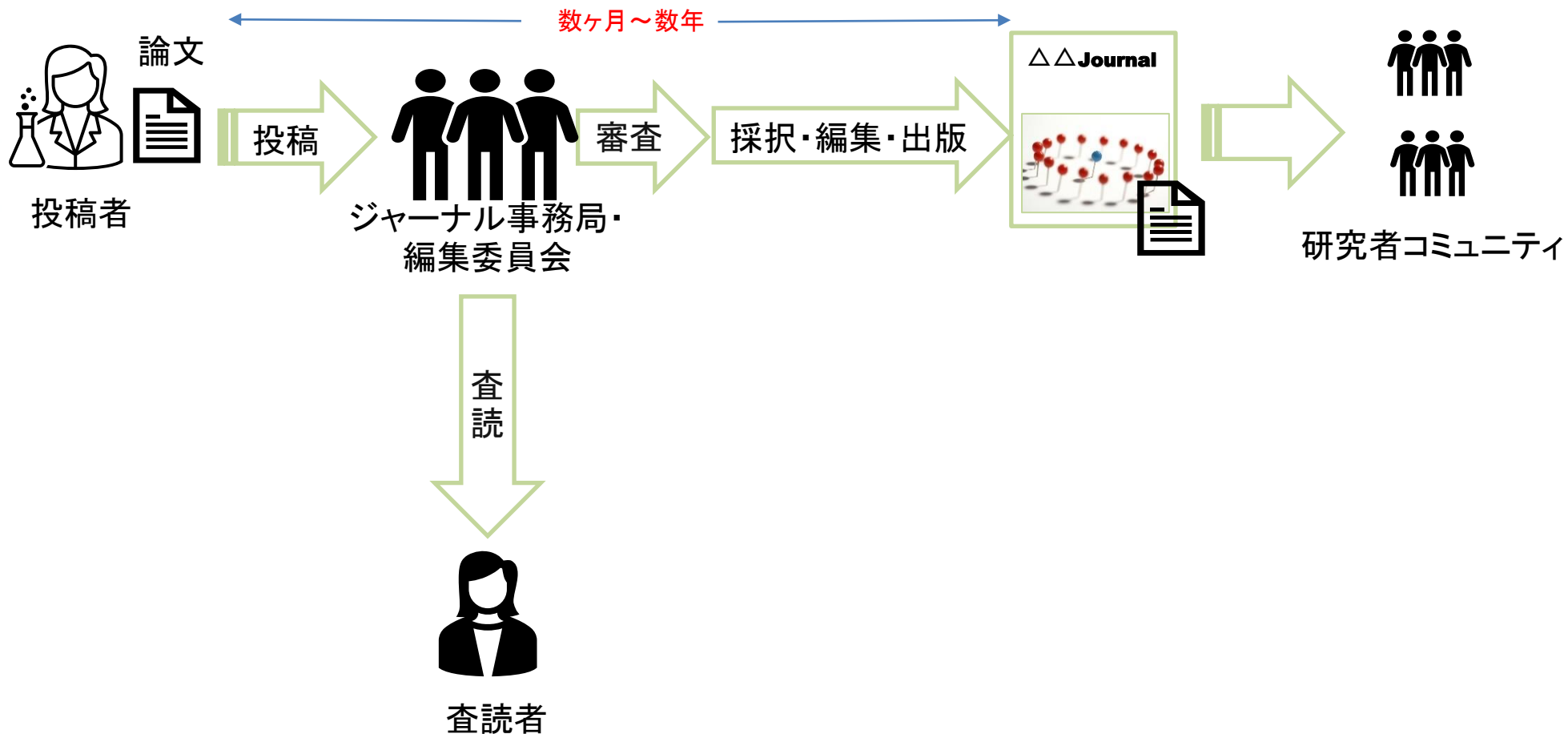
- 研究の成果の発表の方法は研究分野によって様々（著書、学会発表、学術雑誌（ジャーナル）での論文 等）。
- 自然科学分野、人文学・社会科学分野ではジャーナルにおいて論文発表することが一般的。

學術論文出版②



学術論文出版③

査読付き学術誌(ジャーナル)からの出版・公開

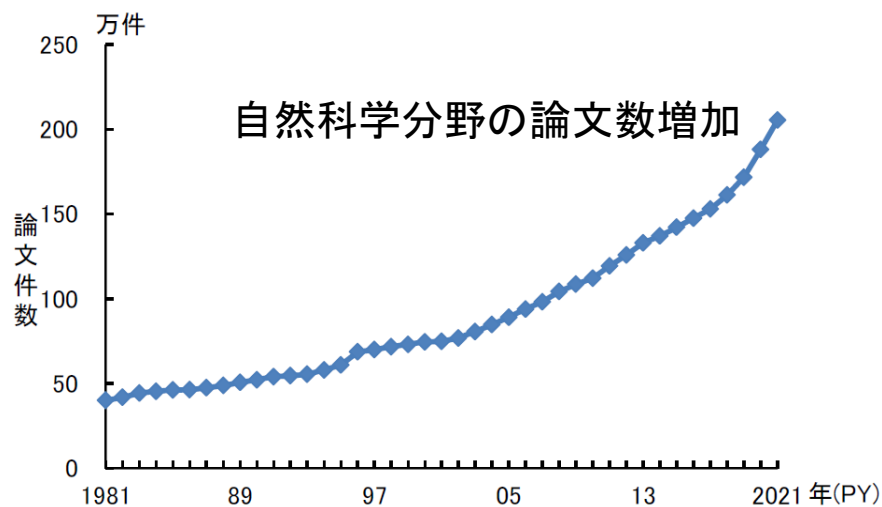


学術論文出版④

- 学術雑誌の歴史は1665年「Philosophical Transaction of the Royal Society」に遡ると言われる。
- 冊子体で始まり、査読や引用は20世紀に広まった。
- 第二次世界大戦後に冷戦を背景に論文数増加、商業出版が台頭。
- ジャーナルの価格高騰。 → 大学図書館が購入できない。
- 1995年頃からインターネット普及。
- 海外商業出版者のジャーナルの電子化(1996年～)。
 - 購読しないと全文が見られない。

学術論文出版⑤

- ビッグディール(商業出版社による大量の電子ジャーナルのパッケージ販売)。
- 対抗措置としてのオープンアクセスの動き。



注:
分析対象は、Article, Review とし、整数カウント法により分析。年の集計は出版年(Publication year, PY)を用いた。

資料:
クラリベイト社 Web of Science XML (SCIE, 2022 年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。

出典:
NISTEP 科学技術指標2023 (accessed 2023-11-18)
<https://doi.org/10.15108/rm328>

J-STAGE

- Japan Science and Technology Information Aggregator, Electronic (科学技術情報発信・流通総合システム)
- 日本国内の学協会等が発行する科学技術(人文科学・社会科学分野も含む)逐次刊行物の発信・流通促進及びオープンアクセス推進を目的として運用される電子ジャーナルサイト

J-STAGEトップページの検索窓 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

J-STAGE 資料・記事を探す J-STAGEについて ニュース&PR サポート サインイン カート JA

J-STAGE上の記事を検索

検索条件の詳細設定

5,223,458 記事 (4,958,354 記事)

3,286 資料 (2,844 資料)

25 専門分野

* 2021/05/06 現在

オープンアクセスの定義

ブダペスト・オープンアクセス・イニシアティブ (BOAI, 2002)

「公衆に開かれたインターネット上において、無料で利用可能であり、閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、論文フルテキストへのリンク、インデクシングのためのクローリング、ソフトウェアヘデータとして取り込み、その他合法的目的のための利用が(中略)財政的、法的または技術的な障壁なしに誰もが許可されること」

(出典: <https://www.budapestopenaccessinitiative.org/read/>)

科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) 利用規約

第2条

(4)「オープンアクセス」とは、インターネット上に論文等を無料公開し、二次的利用の範囲に関するライセンス情報を明記することで、誰もが障壁なく閲覧・利用できることをいいます。

オープンアクセスの種類

- ① グリーンOA（セルフアーカイブ）：
機関リポジトリ などから、おもに著者自身が、著者最終稿を無料公開する。多くはライセンス情報なし
- ② ゴールドOA：
オープンアクセス誌 から論文を無料公開する。著者は APC（論文掲載料）を負担する場合が多い。ライセンス情報付き

（著者の負担がないものをダイヤモンドOAあるいはプラチナOAとよぶ）

（ハイブリッドOA誌にて論文をオープンアクセスとして公開することもある）

オープンアクセス関連用語

ライセンス:

コンテンツを二次利用する際の範囲・条件などを示す**CCライセンス**など

APC (Article Processing Charge, 論文掲載料):

オープンアクセス誌の多くでは、著者はAPCを支払う必要がある

最近では、とくに海外のトップジャーナルにおいて、APCの高騰が大きな問題となっている

著者最終稿 (Accepted Manuscript: AM):

査読およびそれをうけた改訂をへて受理された原稿

そののち発行機関（出版社）は、ジャーナルのスタイルにレイアウトを整えた出版社版（Version of Record: VoR）を作製しこれを出版する

ハイブリッドOA誌:

ジャーナル自体は有料の購読誌だが、著者が APC を支払うことにより、その論文をオープンアクセスとするジャーナル

海外のオープンアクセスに関する方針

■ 米国

大統領府科学技術政策局 (OSTP) パブリックアクセスポリシーの更新に関するメモランダム (2022年8月)

- 公的助成研究成果 (研究論文およびその研究データ) は、**エンバーゴ期間を設けず即時オープンアクセスで公開**
- 連邦政府機関に対し、**2025年12月31日までにパブリックアクセスポリシーを改訂・施行することを求める**

<https://www.whitehouse.gov/ostp/news-updates/2022/08/25/ostp-issues-guidance-to-make-federally-funded-research-freely-available-without-delay/>

■ 欧州

- 助成機関や多数の政府機関レベルでオープンアクセス化を推進
- 全体的に**ゴールドOAを支持**
- 欧州の研究助成機関から構成されるcOAlition Sが「**Plan S**」を発表 (2018年)
2021年1月以降にcOAlition S参加機関から支援を受けた研究成果は、**即時オープンアクセス公開**が義務づけられる

https://www.coalition-s.org/plan_s_principles/

日本におけるオープンアクセス方針

2025年度公募から公的資金による研究成果論文の 即時オープンアクセス化

2023年5月12日-14日 G7仙台科学技術大臣会合 共同声明

「G7は、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセスを支援」

2023年5月20日 G7広島首脳コミュニケ

「G7は、FAIR原則に沿って、科学的知識並びに研究データ及び学術出版物を含む公的資金による研究成果の公平な普及による、オープン・サイエンスを推進する」

2023年6月9日 閣議決定 「統合イノベーション戦略2023」

「我が国の競争的研究費制度における2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定する」

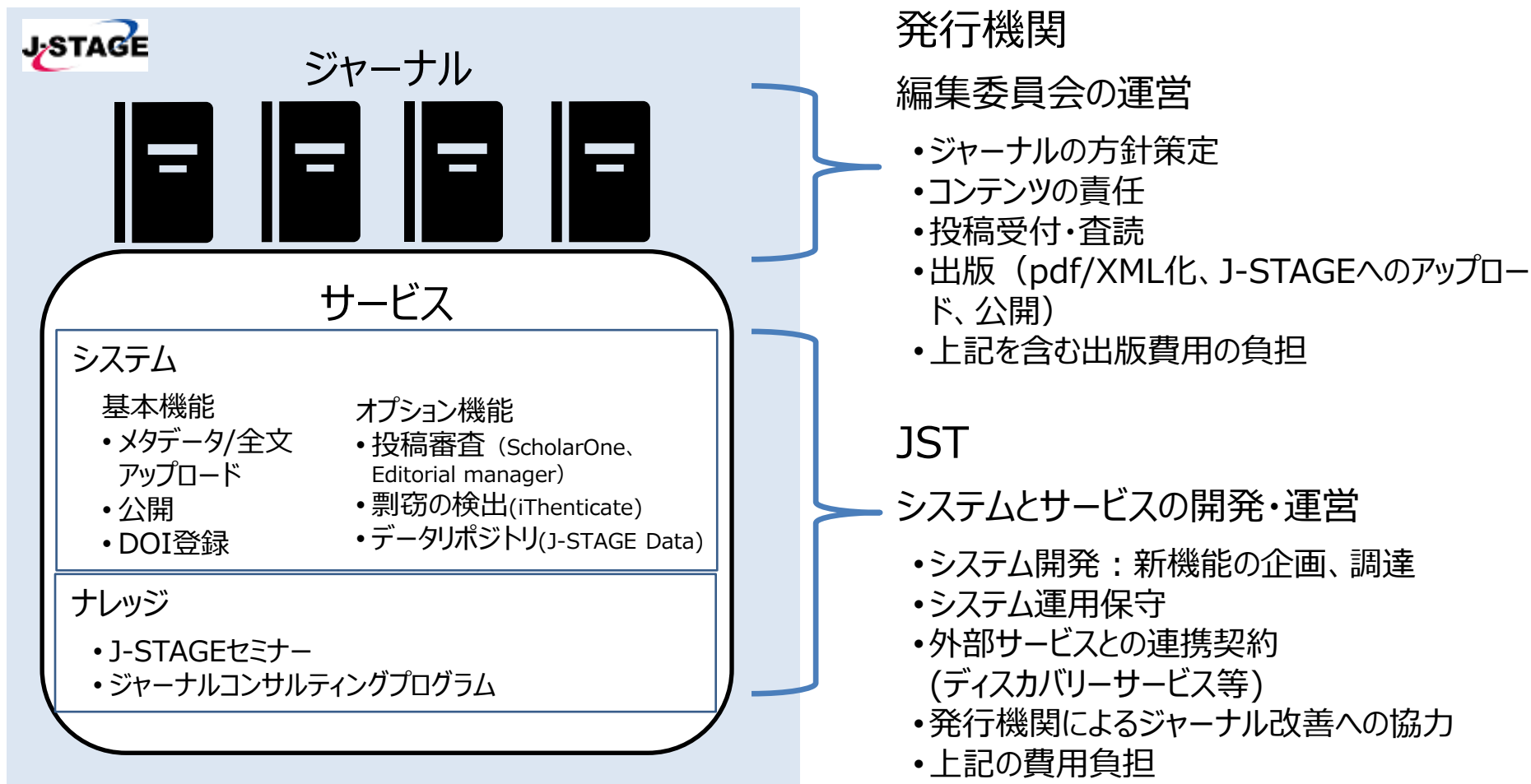


日本の学協会等が発行する学術ジャーナルの電子出版を担うプラットフォーム

8割以上のジャーナルが無料


- ◆ 1999年サービス開始
- ◆ 収録誌数: 3,900 誌
収録記事数: 5,657,400記事
(2023/11/18現在、刊行終了誌や予稿集を含む)
- ◆ 我が国の科学技術刊行物の国内外への情報発信及び流通を促進
- ◆ オープンアクセスを推進
- ◆ データの作成・公開・運用は各発行機関 (J-STAGE利用学協会等)が実施

J-STAGEの機能と運用体制



国際標準の識別子：DOIとは

● DOIとは・・・

- ⇒ Digital Object Identifier  とは、コンテンツに割り当てられるPID (Persistent ID: 永続的識別子) の一つ。
- ⇒ 対象コンテンツへのリンク(URL)と紐付けられているコンテンツのマイナンバーのようなもの

● DOIを登録することにより・・・

- ⇒ 永続的なURLが与えられ、リンク切れを防ぎ、対象コンテンツに確実に到達できる。
- ⇒ 世界で流通する識別子を付与できる
- ⇒ 統計や文献同定など、コンテンツ単位での適切なデータ処理が可能になる。
- ⇒ 引用、被引用、検索、参照に利用可能(相互運用性の向上)

国際標準の識別子：DOIとは

DOI prefix DOI suffix
↓ ↓
DOIの例: 10.1241 / johokanri.57.936

アクセスする際のURL ⇒ <https://doi.org/10.1241/johokanri.57.936>

- ISOにより標準化された規格(ISO26324:2012)。
- 各機関固有のDOI prefixと、個々のコンテンツを特定するDOI suffixとを「/」でつないで並べた構成。
- DOIの前に、「https://doi.org/」を付けることにより、URLとして機能。

DOIのしくみ

① DOI・URLを登録

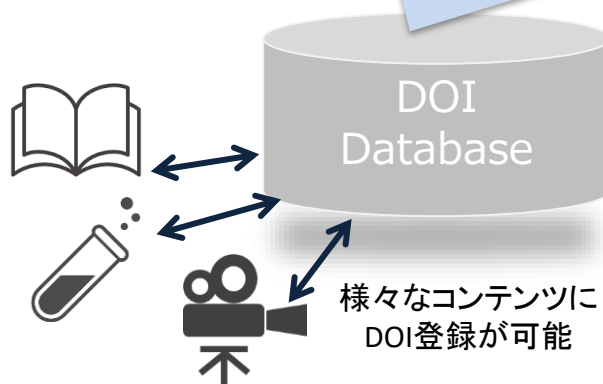
<DOI> 10.1000/123

<URL> ~~https://www<jalc>.com~~

② コンテンツホルダーがURL情報を変更

<DOI> 10.1000/123

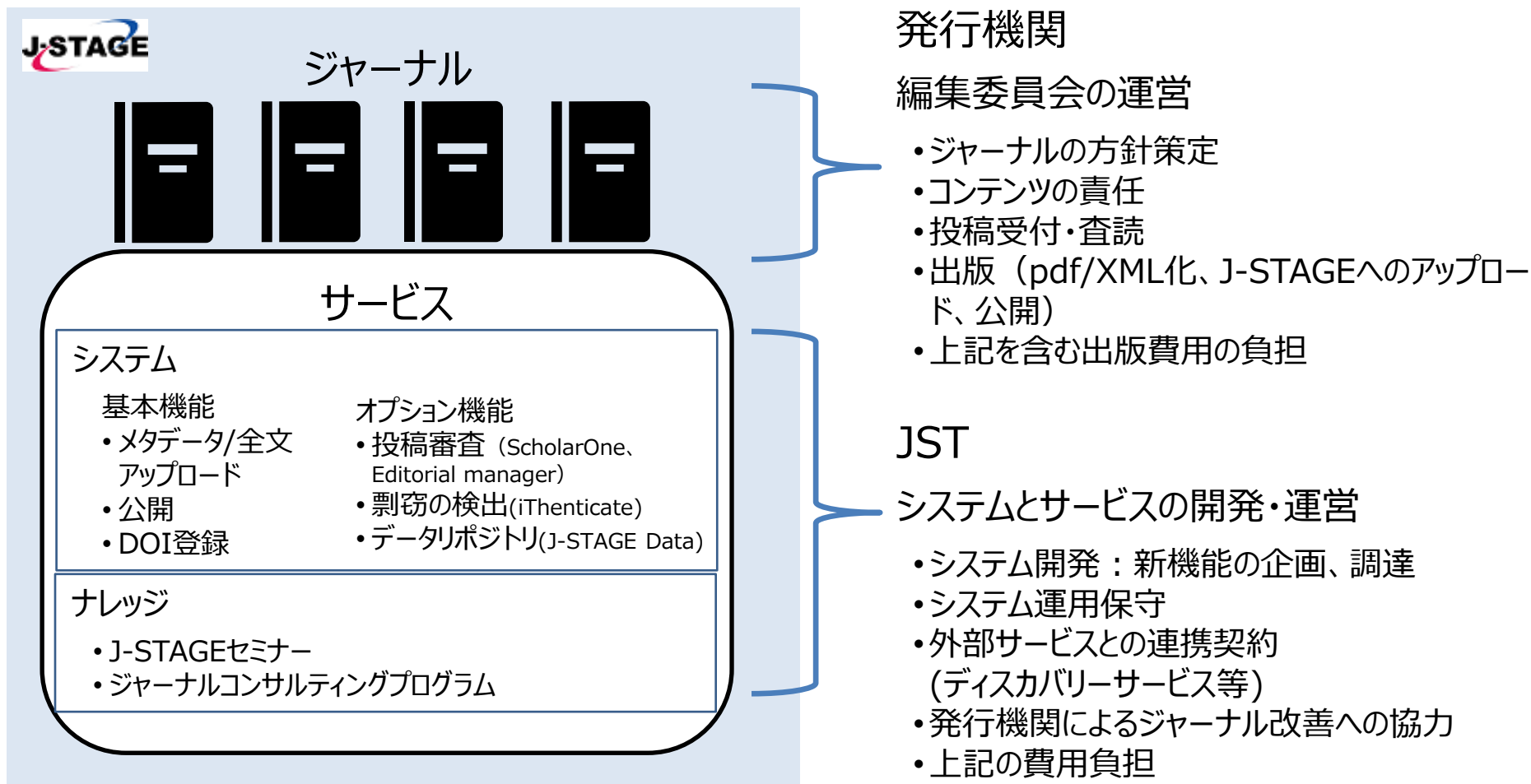
<URL> **https://www%jalc.com**



③ DOIにより新しいURLへアクセス可能



J-STAGEの機能と運用体制



発行機関のJ-STAGE利用要件

- (1) **発行機関が日本の団体**であること、又は、科学技術刊行物の発行拠点、編集拠点、連絡拠点その他の発行に係る主要な拠点が日本に存在すること
- (2) **継続的に科学技術刊行物を発行し、これを電子化してJ-STAGEに登載**する体制及びJ-STAGEのシステムを利用する動作環境が整っていること
- (3) 科学技術刊行物の発行の主たる目的の一つが**営利目的ではない**こと
- (4) **オープンアクセスの実現**に積極的に取り組めること

※出典：科学技術情報発信・流通総合システム利用規約第3条2.

登載対象コンテンツ

資料種別	中心となる基本的な資料例（JSTにおける分類）
1. ジャーナル	研究基盤情報として研究成果、技術開発成果を研究者、技術者向けに広く流布させることを目的として刊行される、原著論文を主たる記事としている雑誌。広がりをもつ研究者・技術者層から投稿され、研究者・技術者層に広く閲覧されることを前提としているもの、査読を経た記事を含むことが望ましい。
2. 研究報告・技術報告	特定の機関の研究、技術開発、調査の中間成果、活動成果を研究者、技術者向けに広く流布させることを目的として刊行される雑誌、報告書など。個々の記事が原著論文であるものから、短報や紹介記事を掲載したもの。 具体的には、企業が刊行する技報(研究報告、技術報告等)や、大学紀要、研究所報告、研究ファンドの報告書、科学技術レポート、「成果報告書」「成果事例集」「研究紹介」などがあたり、研究ファンドの簡易な成果紹介も含む。
3. 会議論文・要旨集	学協会等が開催する研究集会に発表した研究開発成果の概要をまとめたもの。個々の記事が原著論文であるものから短報のものまで、会議関連の資料全般が対象。 具体的には「会議論文集」「要旨集」「予稿集」「概要集」などとして刊行したもの。事例発表会等の事例集、講義テキストを含む。企業や大学が主催するシンポジウム、セミナー等の会議要旨集を含む。
4. 解説誌・一般情報誌	技術動向や技術応用等を当該分野及び境界領域の研究者、技術者に広く流布することを目的として、実用的な知識、技術紹介、製品紹介などの記事を掲載したもの。また一般向けの科学技術理解増進のための啓蒙的記事を掲載したものや業界ニュース誌を含む。
5. その他	上記①～④の定義に当てはまらない学術誌。 候補として調査資料・統計資料等のコンテンツが挙げられる。



※ 2015年11月追加

J-STAGE トップ画面 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

The screenshot shows the J-STAGE homepage with the following elements:

- Navigation:** Top menu with links for '資料・記事を探す', 'J-STAGEについて', 'ニュース&PR', and 'サポート'. Right side has 'サインイン', 'カート', 'JA', and a search icon.
- Search Bar:** A search bar with the text 'J-STAGE上の記事を検索' and a magnifying glass icon. Below it is a link for '検索条件の詳細設定'.
- Statistics:** A row of statistics: '5,023,390 記事 (4,760,580 記事)', '3,065 資料 (2,630 資料)', and '25 専門分野'. A date '* 2020/04/21 現在' is shown on the right.
- 注目トピックス:** A section titled '注目トピックス' with a 'My J-STAGEにサインイン' button. It features three 'リリースノート' (Release Notes) cards with a lightbulb icon. The first card is titled 'J-STAGEのデータリポジトリ関連機能' and mentions 'New' and 'J-STAGEのデータリポジトリに関する機能はこちらからご覧いただけます。' The second and third cards are titled 'リリースノート' and mention '登録誌向けデータリポジトリ「J-STAGE Data」をリリースしました。' and '【発行機関の方へ】データリポジトリ対応機能をリリースしました。' respectively.
- 新着資料:** A section titled '新着資料' with a grid of new publications. Each card shows a cover image, title, and date. Examples include '年報 体育社会学 2020/04/15', '音楽教育メディア研究 2020/04/15', '外国語教育メディア学会 関東支部研究... 2020/04/13', '色彩・コミュニケーションデザイン', '島根県立中央病院医学雑誌', and '日本VR医学会学術大会プログラム...'.

- 記事検索窓
- 現在の登載誌数・記事数
- 最新情報(J-STAGEからのお知らせ)
- 注目トピックス
- 新着資料
- 新着号
- 月間アクセス数ランキング(全資料中)等を表示

資料トップ画面

気象集誌 第2輯

Journal of the Meteorological Society of Japan (JMSJ) is an international, peer-reviewed, and open-access journal for the publication of research in areas of meteorology.

もっと読む

公益社団法人 日本気象学会 が発行

ジャーナル 査読 オープンアクセス HTML 早期公開

DOAJ SCOPUS J-STAGE DATA

収録数 6,705本
(更新日 2020/12/01)

Online ISSN : 2186-9057
Print ISSN : 0026-1165
ISSN-L : 0026-1165

1.976
2019 Journal Impact Factor (JIF)



資料トップ 早期公開 巻号一覧 おすすめ記事 この資料について

J-STAGEトップ / 気象集誌 第2輯 / 資料トップ

2020年 98巻 5号

テイラードアンサンブル予測システム：シームレススケール育成ベクトルの適用

Alejandro HERMOSO, Victor HOMAR, Steven J. GREYBUSH, David J. STENSURUD

理想化シミュレーションにおける熱帯低気圧発生におよぼす上層高気圧と下層低気圧の効果の比較

Xi CAO, Renguang WU, Yifeng DAI, Jing XU

メソスケールの流れを解像したシミュレーションを基にした下層雲のエネルギー平衡モデルの構築

宮本 佳明, 佐藤 陽祐, 西澤 誠也, 八代 尚, 清水 達也, 野田 暁



- 資料カバー画像
- データベース (Scopus, PubMed, DOAJ) 収録状況
- データリポジトリアイコン
- 最新号の主な記事
- 月間アクセス数ランキング
- Journal Impact Factor 等を表示

「この資料について」画面

気象集誌 第2輯

Journal of the Meteorological Society of Japan (JMSJ) is an international, peer-reviewed, and open-access journal for the publication of research in areas of meteorology.
もっと読む

公益社団法人 日本気象学会 が発行

ジャーナル 査読 オープンアクセス HTML 早期公開

DOAJ SCOPUS J-STAGE DATA

収録数 6,705本
(更新日 2020/12/01)

Online ISSN : 2186-9057
Print ISSN : 0026-1165
ISSN-L : 0026-1165

1.976
2019 Journal Impact Factor (JIF)



資料トップ 早期公開 巻号一覧 おすすめ記事 **この資料について**

J-STAGEトップ / 気象集誌 第2輯 / この資料について

ジャーナルについて

Journal of the Meteorological Society of Japan (JMSJ) is an international, peer-reviewed, and open-access journal for the publication of research in areas of meteorology.

Aims and Scope

JMSJ publishes Articles and Notes and Correspondence that report novel scientific discoveries or technical developments that advance understanding in meteorology and related sciences. The journal's broad scope includes meteorological observations, modeling, data assimilation, analyses, global and regional climate research, satellite remote sensing, chemistry and transport, and dynamic meteorology including geophysical fluid dynamics. In particular, JMSJ welcomes papers related to Asian monsoons, climate and mesoscale models, and numerical weather forecasts. Insightful and well-structured original Review Articles that describe the advances and challenges in meteorology and related sciences are also welcome.

JMSJ encourages authors to include the data underlying their work as supplementary material. These data, which must be under 50MB, may describe observations, experiments, modeling or analyses and may take the form of databases, simulations, movies, large figures or as otherwise appropriate.



過去の巻号を選ぶ

巻 号 閲覧

- 資料の紹介文
- 編集委員一覧
- 論文を
- 分野情報
- 投稿方法

発行機関情報(連絡先)

データリポジトリ情報 等を表示

書誌画面

気象集誌. 第2輯

Online ISSN : 2186-9057
Print ISSN : 0026-1165
ISSN-L : 0026-1165

資料トップ 早期公開 巻号一覧 おすすめ記事 この資料について

J-STAGEトップ / 気象集誌. 第2輯 / 98巻 (2020) 4号 / 書誌

Articles

東京に接近する台風の1980年以降の増加

山口 宗彦, 前田 修平

著者情報

ジャーナル オープンアクセス HTML

2020年 98巻 4号 p. 775-786

DOI <https://doi.org/10.2151/jmsj.2020-039>

Browse "Advance Publication" version.

詳細

記事の概要

抄録

抄録

引用文献 (34)

関連文献 (2)

図 (9)

著者関連情報

共有する



本文 (HTML形式)

PDFをダウンロード (2927K)

メタデータをダウンロード

RIS形式

(EndNote, Reference Manager,

ProCite, RefWorksとの互換性あり)

- タイトル
- 著者名
- キーワード
- DOI
- 抄録
- 引用/被引用文献
- 著者関連情報
- Data Availability Statement (関連データとの紐付がある場合)
- オルトメトリクス (一部記事のみ) 等の書誌情報を表示

観測に基づくと、東京を含む日本の南海岸に接近する熱帯低気圧の数が過去40年間で増加しており、また接近時の強度が強まっている。海面水温の上昇、風の鉛直シアの弱化、さらに大気中の水蒸気量の増加により、熱帯低気圧の発達により好条件な環境場となっている。加えて、熱帯低気圧の移動速度が遅くなっており、これは熱帯低気圧による影響時間が長くなっていることを意味する。前半の20年 (1980~1999、P1期間と呼ぶ) と後半20年 (2000~2019年、P2期間と呼ぶ) の7~10月の環境場を比較すると、P2期間はP1期間と比べて亜熱帯高気圧の勢力が強く、西および北への張り出しが強まっている。また、対流圏中~上層において、日本の南および上空で偏西風が弱まっている。これらの環境場の変化が、東京に接近する台風を増加させ、および発達に都合の良い条件を作り出していると考えられる。地球温暖化とこれら過去40年間の熱帯低気圧の特徴の変化との関係は不明である。ただし、P2期間は太平洋上空規模運動が下の期間で、P2期間の多くは急の期間

本文PDF閲覧画面

ja 1 / 12

Journal of the Meteorological Society of Japan, 98(4), 775–786, 2020. doi:10.2151/jmsj.2020-039 775

Increase in the Number of Tropical Cyclones Approaching Tokyo since 1980

Munehiko YAMAGUCHI and Shuhei MAEDA
Meteorological Research Institute, Japan Meteorological Agency, Tsukuba, Japan
(Manuscript received 17 December 2019, in final form 9 April 2020)

Abstract

Based on observations, the number of tropical cyclones (TCs) approaching the southern coast of Japan, including Tokyo, has increased over the last 40 years, and these TCs are increasing in strength when they approach land. The environmental conditions for TC development have become more favorable, with warmer sea surface temperature, less vertical wind shear, and more moisture in the atmosphere. In addition, the translation speed of TCs has decreased, which indicates a longer influence time. Comparison of the synoptic environment during July–October between the first (1980–1999, P1) and second (2000–2019, P2) 20 years shows that the sub-tropical high is strengthened in P2, where the western and northern edge of the high extends further into the west and north, respectively. Also, the westerly jet is weakened in P2 over and south of Japan in the middle-to-upper troposphere. These changes in the synoptic environment are considered to play a role in the increase in the number of TCs approaching Tokyo and also in the creation of more favorable conditions for TC development. The relationship between the changes in TC characteristics over the last 40 years and global warming is unclear. As the Pacific Decadal Oscillation is in a positive phase in P1 and in a negative phase in many years of P2, decadal oscillations may have played some role in the increase in the number of approaching TCs and in the changes in the synoptic environment.

Keywords tropical cyclone; trend analysis; approaching frequency; decadal variability; Pacific Decadal Oscillation

本文HTML閲覧画面

気象集誌. 第2輯

Online ISSN : 2186-9057

Print ISSN : 0026-1165

ISSN-L : 0026-1165

資料トップ 早期公開 巻号一覧 おすすめ記事 この資料について

J-STAGEトップ / 気象集誌. 第2輯 / 98 巻 (2020) 4 号 / 書誌 / 全文

Articles

東京に接近する台風の1980年以降の増加

山口 宗彦, 前田 修平

著者情報

ジャーナル オープンアクセス HTML

2020 年 98 巻 4 号 p. 775-786

DOI <https://doi.org/10.2151/jmsj.2020-039>

Browse "Advance Publication" version.

詳細

Article overview

- Abstract
- 1. Introduction
- 2. Methods and data
- 3. Results
- 4. Discussion
- 5. Summary
- Acknowledgments
- Footnotes
- References(34)

Abstract

Based on observations, the number of tropical cyclones (TCs) approaching Tokyo, including Tokyo, has increased over the last 40 years and the increase is more than 1.5 times for each land. The environmental conditions of TCs have become more favorable, with increases of surface temperature, less vertical wind shear, and more moisture in the atmosphere. In addition, the number of TCs has decreased, which indicates a longer influence time. Comparison of the synoptic environment during July–October between the first (1980–1989) and second (2000–2009) decades shows that the synoptic environment is strengthened in P2, where the westerly jet, the northern edge of the high extends further into the west and north, respectively. Also, the westerly jet is strengthened in P2 over and south of Japan in the middle-to-upper troposphere. These changes in the synoptic environment are considered to play a role in the increase in the number of TCs approaching Tokyo and in the increase in the number of TCs that have influenced Tokyo. In addition, the TC characteristics have changed over the last 40 years and the changes are clearly seen. As the Pacific Decadal Oscillation is in a positive phase, the decadal oscillations

PDFをダウンロード (2927K)

メタデータをダウンロード

RIS形式
(EndNote, Reference Manager, ProCite, RefWorksとの互換性あり)

BIB TEX形式
(BibDesk, LaTeXとの互換性あり)

テキスト

メタデータのダウンロード方法

発行機関連絡先

- 記事の **全文XMLデータ** を作成して登載することで、HTML形式での本文表示が可能
- タブレット、スマートフォン等での閲覧にも適している
- 本文中のサムネイルから電子付録への素早いアクセスが可能
- 機械可読な形式であり、機械翻訳やビッグデータ解析等の幅広い利活用が期待

機能(1) DOI登録

ジャパンリンクセンター(JaLC)と連携し、
J-STAGEに登載された全記事にDOIを自動的に登録

The screenshot shows a J-STAGE article page with the following details:

- 情報管理** (Information Management) header with Online ISSN: 1347-1597 and Print ISSN: 0021-7298.
- Navigation links: [資料トップ](#), [巻号一覧](#), [この資料について](#)
- Breadcrumb: [J-STAGEトップ](#) / [情報管理](#) / [60巻\(2017\)12号](#) / [書誌](#)
- Article Title: トークセッション サイエンスアゴラ2017 トークセッション 人工知能(AI)との共生:人間の仕事はどう変化していくのか
- Author: 安宅和人, チェンドミニク, 山口高平, 山本 勲
- Author Information: [著者情報](#)
- Keywords: AI, 人工知能, I/O, インプット/アウトプット, 意味理解, クオリア, 知的体験, 意思, 非認知能力, 共感, 共生
- Format Selection: [ジャーナル](#) (selected), [フリー](#), [HTML](#)
- Page Info: 60巻(2017)12号 p. 865-881
- DOI: <https://doi.org/10.1241/johokanri.60.865> (highlighted with a red box)
- Download Options: [本文 \(HTML形式\)](#), [PDFをダウンロード \(15087K\)](#), [メタデータをダウンロード](#), [RIS形式](#) (EndNote, Reference Manager, ProCite, RefWorksとの互換性あり), [BIB TEX形式](#) (BibDesk, LaTeXとの互換性あり), [テキスト](#), [ダウンロード方法](#)

※ DOI(Digital Object Identifier)... デジタルコンテンツに恒久的に与えられる識別子。
最新のURLがDOIに紐付けられるため、DOIが分かればコンテンツへの永続的な
アクセスが可能。

機能 (2) 引用 / 被引用文献リンク

J-STAGEが連携する外部サービス(後述)に登録されている引用/被引用文献には、DOIによるリンクが作成される

References (42)

- 1) Benedict JD, Forsham PH, Stetten D Jr. The metabolism of uric acid in the normal and gouty human studied with the aid of isotopic uric acid. *J. Biol. Chem.*, 181, 183-193 (1949).
- 2) Garrel DR, Verdy M, PetitClerc C, Martin C, Brulé D, Hamet P, PetitClerc C, Martin C, Bruke D, Hamet P. Milk- and soy-protein ingestion: acute effect on serum uric acid concentration. *Am. J. Clin. Nutr.*, 53, 665-669 (1991).
- 3) Yu TS, Berger L, Gutman AB. Renal function in gout. II. Effect of uric acid loading on renal excretion of uric acid. *Am. J. Med.*, 33, 829-844 (1962).

Information of Links

Linked information

Link [CAS]
[PubMed]

Detailed information

Home | Help | Contact Us
CAS
ASSOCIATION OF THE AMERICAN CHEMICAL SOCIETY
Reference Linking Welcome to CAS from J-STAGE.

To learn about CAS Products [Click Here!](#)

Milk- and soy-protein ingestion: acute effect on serum uric acid concentration
[Back](#) [View Full Text Options](#)

Garrel, Dominique R.; Verdy, Maurice; PetitClerc, Claude; Martin, Christophe; Brule, Danielle; Hamet, Pavel
American Journal of Clinical Nutrition (1991), 53(3), 665-9 CODEN: AJCNAC; ISSN: 0002-9165. English.

Acute effects of the ingestion of 80 g each of casein, lactalbumin, and soybean isolate on serum and urinary uric acid concns. were investigated in 10 healthy subjects. Serum and urinary uric acid concns. were measured before and after the ingestion of proteins. Serum uric acid decreased significantly 3 h after ingestion of lactalbumin and casein but increased after soybean consumption. Urate clearance was significantly increased after ingestion of each of the three proteins. Multivariate anal. of urate clearance during lactalbumin and casein loads showed that independent correlation was obtained for serum alanine and urea concentration. These results demonstrate that, in addition to their known uricosuric effect, milk proteins acutely decrease serum uric acid concentration. Anal. of the effects of lactalbumin and casein on urinary uric acid elimination suggests that the uricosuric effect of proteins is a multifactorial phenomenon.

NCBI Resources How To Sign in to NCBI
PubMed.gov PubMed Advanced Help
US National Library of Medicine National Institutes of Health

Format: Abstract
Send to: Full text links OXFORD ACADEMIC
Save items Add to Favorites

Am J Clin Nutr. 1991 Mar;53(3):665-9.
Milk- and soy-protein ingestion: acute effect on serum uric acid concentration.
Garrel DR¹, Verdy M, PetitClerc C, Martin C, Brulé D, Hamet P.
Author information

Abstract
Acute effect of the ingestion of 80 g each of casein, lactalbumin, and soybean isolate on serum and urinary uric acid concentrations was investigated in 10 healthy subjects. Serum and urinary uric acid concentrations were measured before and after the ingestion of proteins. Serum uric acid decreased significantly 3 h after ingestion of lactalbumin and casein but increased after soybean consumption. Urate clearance was significantly increased after ingestion of each of the three proteins. Multivariate analysis of urate clearance during

Similar articles
The effects of dietary protein on the somatic [Eur J Clin Nutr. 2010]
Response of hormones modulating plasma [J Nutr. 1990]

PubMedやCASに収録されているものは、PubMed/CAS上の書誌情報へのリンクが表示される

機能 (3) 早期公開

- 巻・号や開始ページ等が確定した出版版でなくても、採択した記事を先行して公開できる機能
- 正式に出版が確定した後、通常公開記事として再公開

Biological and Pharmaceutical Bulletin

Online ISSN : 1347-5215
Print ISSN : 0918-6158
ISSN-L : 0918-6158

資料トップ **早期公開** 巻号一覧 おすすめ記事 この資料について

J-STAGEトップ / Biological and Pharmaceutical ... / 早期公開

早期公開論文

早期公開論文の15件中1~15を表示しています

メタデータをダウンロード すべての抄録を表示する

早期公開論文
編集・出版前の最終版論文をオンラインで提供しています。

Three-Dimensional Culture of Umbilical Cord Mesenchymal Stem Cells Effectively Promotes Platelet Recovery in Immune Thrombocytopenia
Xiangcui Gong, Di Sun, Zhenghao Li, Qing Shi, Dong Li, Xiuli Ju
論文ID: b19-01069
発行日: 2020年
[早期公開] 公開日: 2020/04/21
DOI <https://doi.org/10.1248/bpb.b19-01069>

ジャーナル フリー **早期公開**

抄録を表示する PDF形式でダウンロード (1291K)

Increased Vancomycin Clearance in Patients with Solid Malignancies

機能 (4) 電子付録

冊子体では提供できない動画、音声、高精細写真などを論文の付録として公開できる機能

電子付録 (3)

2011/03/11 15:33:00

豊田 正史 (東京大学生産技術研究所 喜連川・豊田研)

Graph Data
jstnanda.M4.mcs.a.tokyo.ac.jp/~toyota/twitter/21

Twitter

Twitter Parsed:

Feed

Web Community Search

Time: 2011/03/11 15:34:00

Duration: 1:00:00

Search

Max nodes: 2,000

In-degree min: 0 max:

Out-degree min: 0 max:

In-degrees

Out-degrees

Node Weight Filter:

Edge Weight Filter:

Analysis

00:09 02:34

動画1 震災時におけるTwitter上での情報伝播の可視化

機能(5) 認証機能

J-STAGEトップ / 購読者認証

購読者番号でサインイン

購読者番号

パスワード

サインイン

購読者番号とは、論文の発行機関が管理し設定している番号です。
My J-STAGE IDと購読者番号は異なります。
購読者番号については発行機関へ直接お問い合わせください。
発行機関の連絡先は[こちら](#)へ。
※購読者番号はJ-STAGEセンター宛にお問い合わせいただいても、回答できません。

この論文を購入する

この論文を購入したい場合は、ショッピングカートにお入れください。ショッピングカートに入れたアイテムは、1日後に自動的に削除されますのでご注意ください。

ショッピングカートに入れる

記事の抄録部分はすべての閲覧者に公開されるが、本文PDF等に対し記事単位で認証(アクセス制限)をかけることが可能

- ID/パスワード認証
- IPアドレス認証
- Pay per View(記事単位での購入)

機能(6) その他オプションサービス (有料)

投稿審査システム

原稿の投稿や査読依頼等、編集の進捗状況を管理できるツール

Similarity Check

過去に出版された論文/Webコンテンツ等とテキストマッチングをかけて類似度を算出する剽窃検知ツール

J-STAGE事業の変遷

ジャーナル電子化が主目的

1999年 J-STAGE～J-STAGE2:ジャーナルの電子化/流通促進が主目的 J-STAGE

2005年～2011年創刊号まで遡って電子化 Journal@rchive

2012年 J-STAGE3 Journal@rchiveサイトと統合
デザイン・ユーザーインターフェースの刷新、XML形式対応
2015年11月 掲載対象コンテンツ拡大・Web掲載機能追加。
NII-ELSデータ移行
2017年 新インターフェースを適用

2018年 ジャーナルコンサルティング パイロット開始

2019年3月 J-STAGE中長期戦略策定

2020年3月 データリポジトリJ-STAGE Dataリリース

2022年3月 プレプリントサーバJxivリリース

オープンサイエンス対応や
ジャーナル強化に
重点をシフト

J-STAGE中長期戦略

ジャーナルを取り巻く環境の急速な変容に戦略的に対応するため、今後5～7年程度のJ-STAGE事業推進の基本姿勢及び施策を中長期戦略としてとりまとめ公開（2019年3月）

【事業推進の基本姿勢】

基本姿勢 1	電子ジャーナルプラットフォーム機能の維持及び新たな要請への対応
基本姿勢 2	「我が国のジャーナルの強化」にかかる学協会との連携の深化及び共創
基本姿勢 3	システム開発やサービス提供の手段の最適化によるJ-STAGEサービスの品質向上

運営方針
の転換

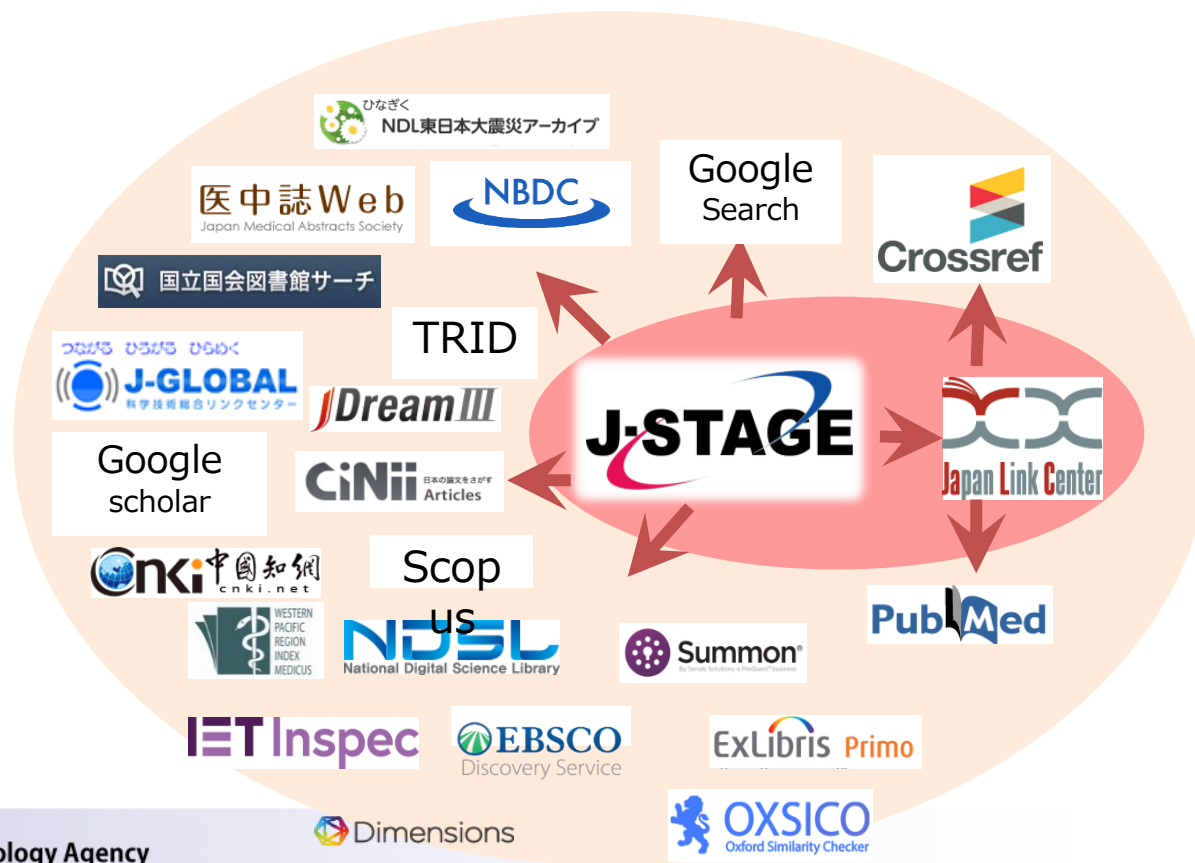
- 1) 我が国の電子ジャーナルの基本的機能の開発及び維持
 - ・世界標準への準拠
 - ・コンテンツの保全、セキュリティの強化
- 2) 目的や状況に応じたジャーナルの強化
 - ・学協会との連携を深化する仕組みづくり
 - ・目的や状況に特化した機能あるいはサービスの提供
- 3) 新たな時代の要請への対応
 - ・J-STAGEがカバーする研究ワークフロー及びコンテンツの拡大
 - ・研究成果の利用促進に資する取り組み

2019年度以降に実施する取組

- ① 研究データリポジトリの設置
- ② 全文データの機械可読化推進
- ③ プレプリントサーバの設置

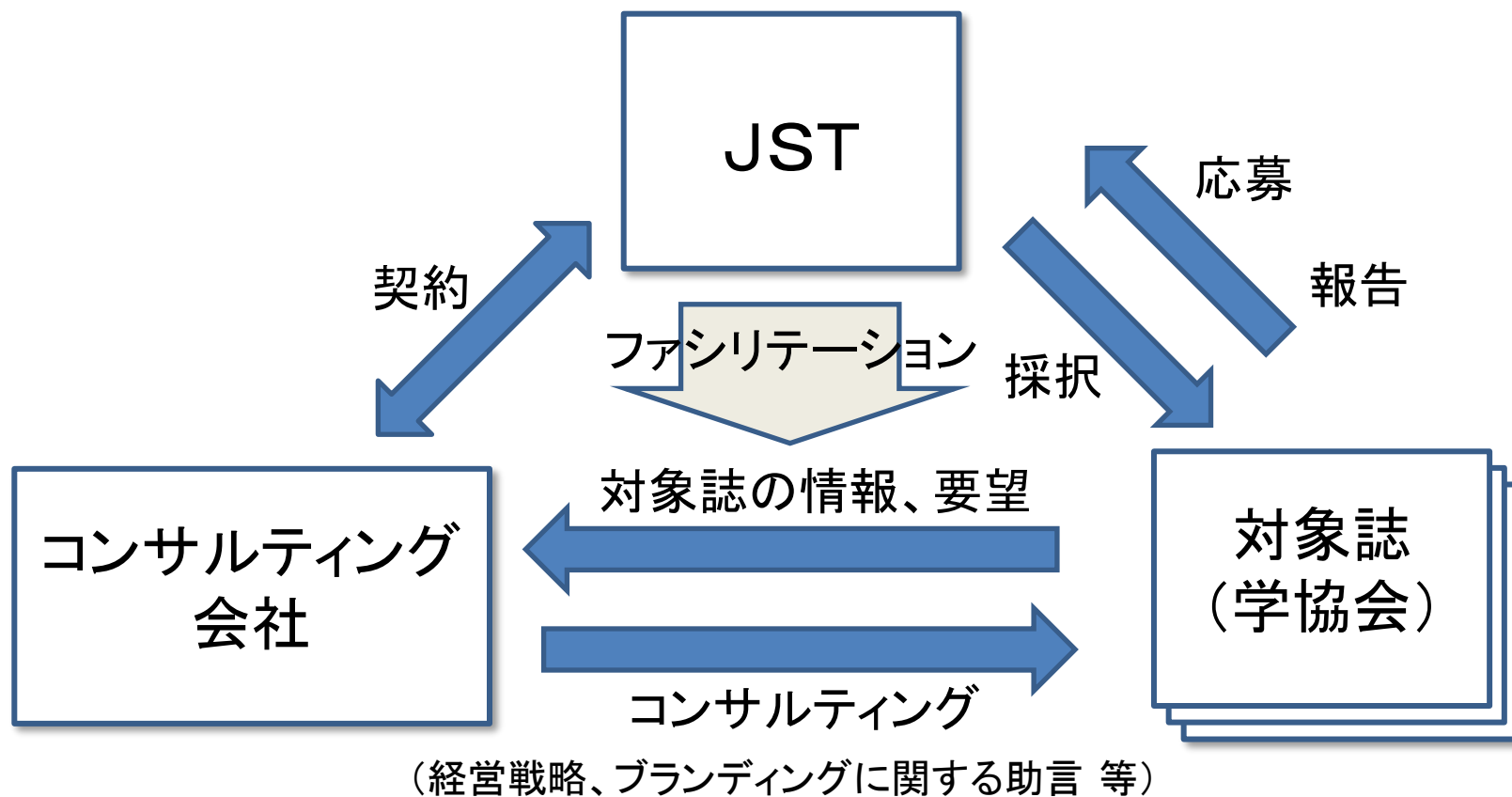
外部サービスとの連携

- 外部サービスからの検索・アクセスを可能にすることで閲覧機会が向上
- 既存の連携サービスとの連携内容の強化及び拡大、新規サービスとの連携確立を目指す
- 政策検討・学術研究目的での掲載データ個別提供もしている
例：e-CSTI(内閣府エビデンスシステム)



ジャーナルコンサルティング

J-STAGE掲載誌の質向上を目指す利用機関に対して、個別事情を踏まえたコンサルティングを行い、ジャーナルの質向上のための課題解決に向けた協力を行う。

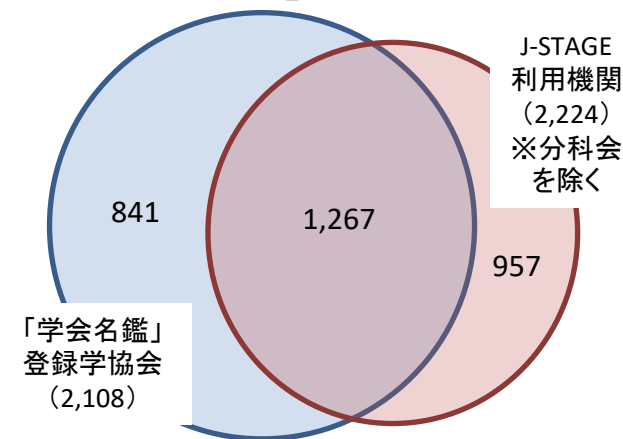
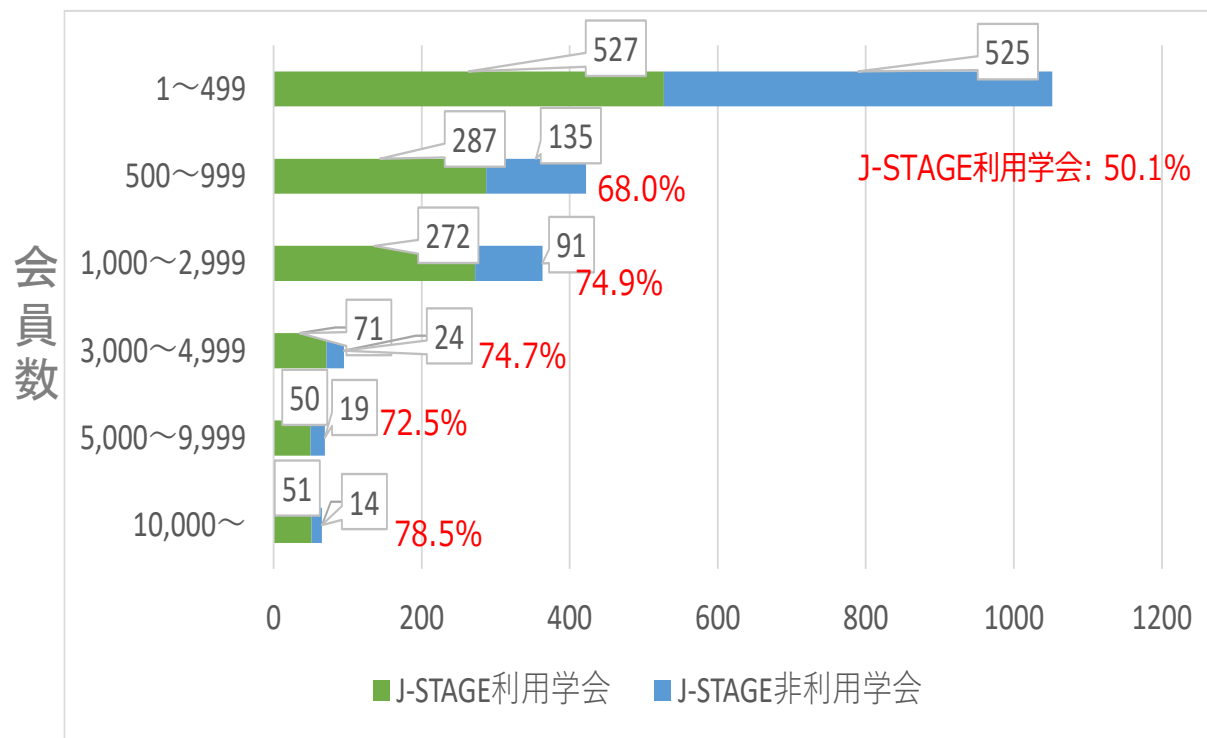


発行機関数・誌数・記事数

※令和5年3月末時点

発行機関数 2,225機関
誌数 3,756誌
記事数 5,533,780記事

わが国の学協会の約半数が利用
(参考:日本学術会議の活動に協力する「協力学術研究団体」学協会数2,108件)

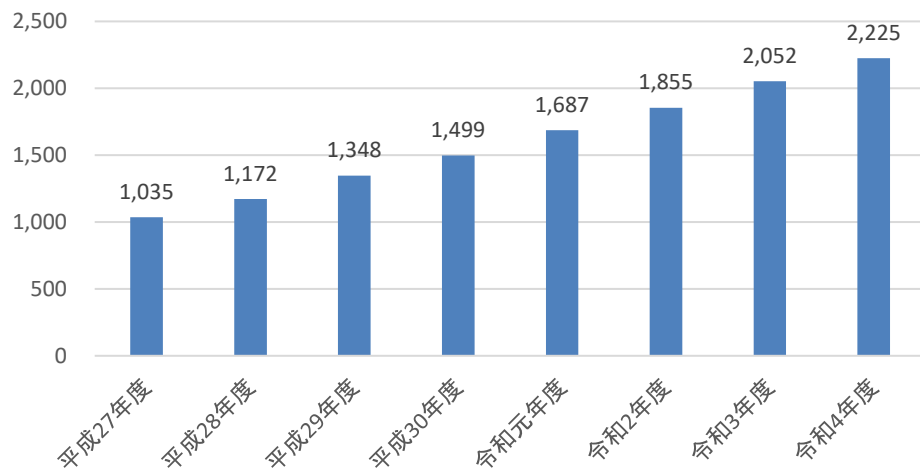


学会名鑑2022/3/31時点の個人会員数を元にJSTが作成
学会名鑑非掲載学会、個人会員を報告していない学会あるいは個人会員数がない学会は対象外

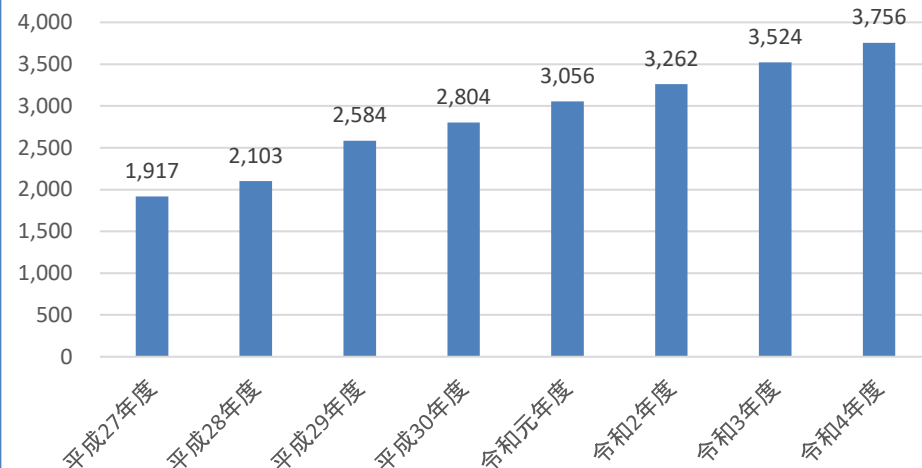
ファクトデータ ① 登載資料関連

※令和5年3月末時点

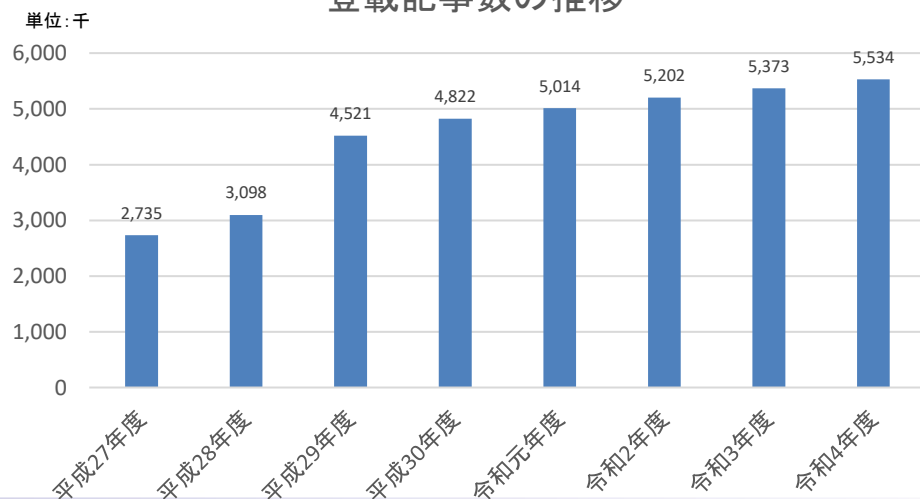
発行機関数の推移



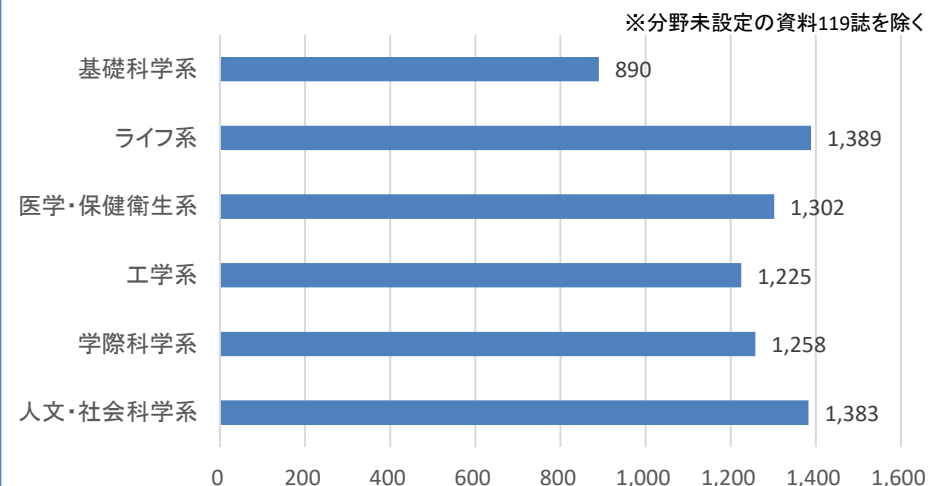
登載誌数の推移



登載記事数の推移



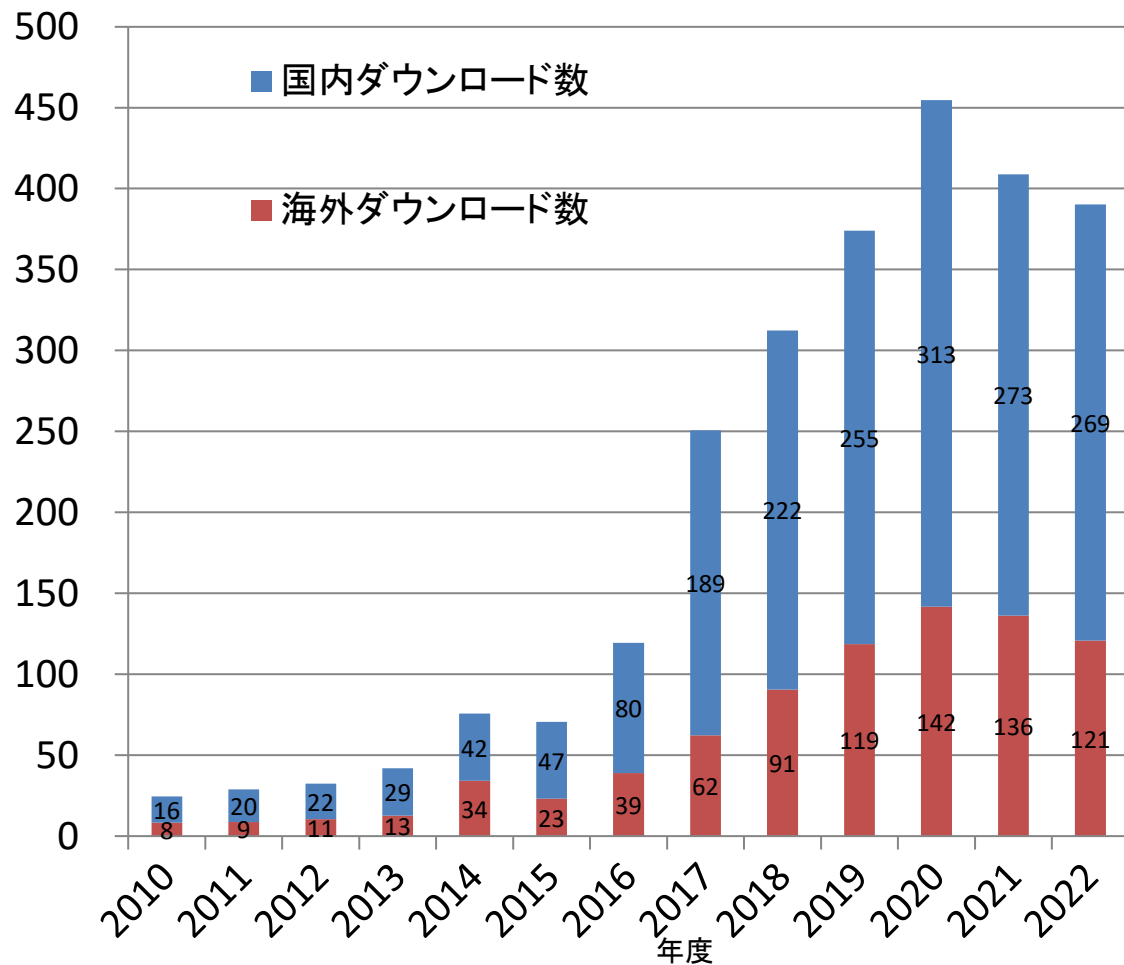
登載誌数の分野(大分類) ※2022/4/21



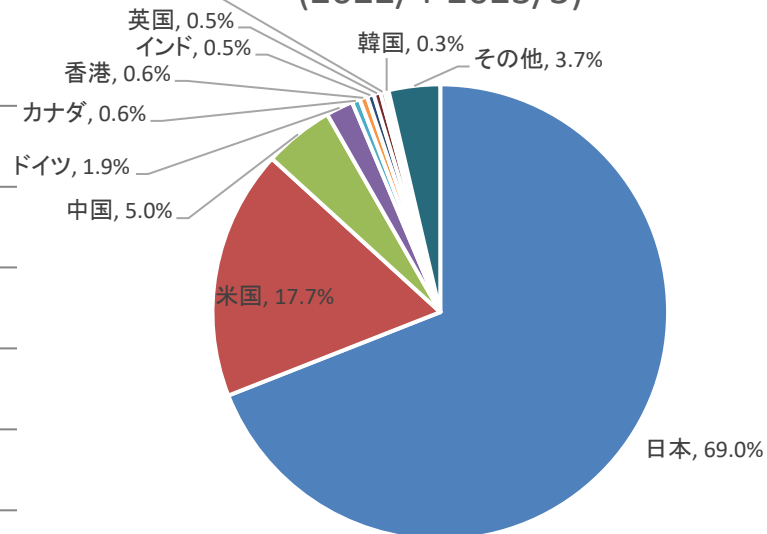
ファクトデータ ②ダウンロード数

ダウンロード数の推移

単位：百万



国・地域別ダウンロード数 (2022/4-2023/3)



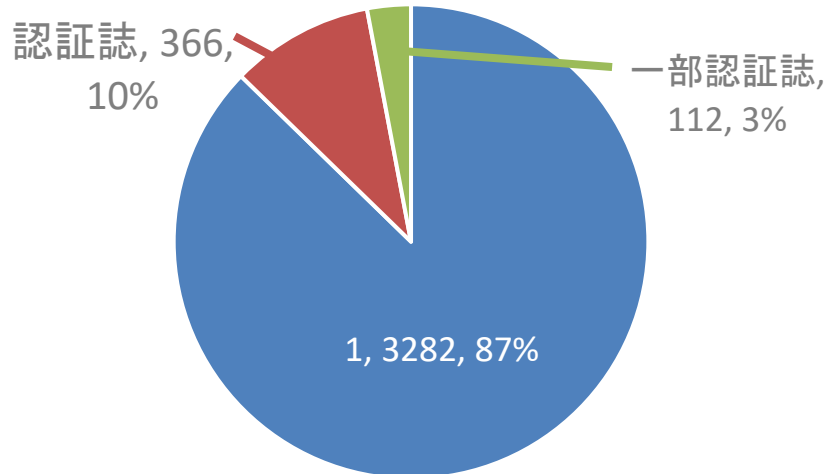
■ 日本	269.3百万件
■ アメリカ	69.2百万件
■ 中国	19.4百万件
■ ドイツ	7.5百万件
■ カナダ	2.2百万件
■ 香港	2.2百万件
■ インド	1.9百万件
■ 英国	1.9百万件
■ アラブ首長国連邦	1.2百万件
■ 韓国	1.1百万件
■ その他	14.2百万件

合計 390.1 百万件

ファクトデータ ③フリー/認証の状況

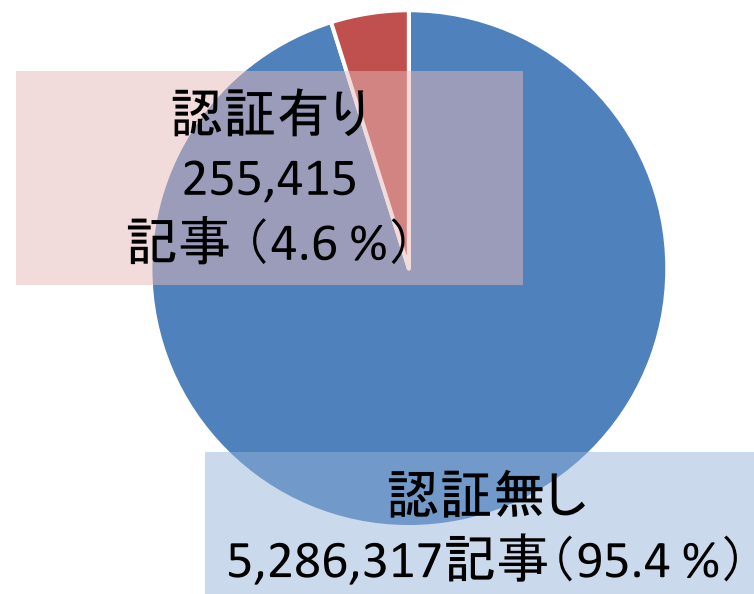
※令和5年4月3日時点

資料



全3,760誌

記事



全5,541,732記事

目次

1. 科学技術振興機構(JST)について
2. JSTの情報事業について
3. J-STAGEについて
4. J-STAGE Data、Jxivについて
5. 全文XML化の取り組み

J-STAGE Dataについて

研究データの公開の必要性

- ✓ オープンサイエンス、データ駆動型研究の潮流
- ✓ 研究不正の防止、研究の透明性の担保



大学・研究機関・研究助成機関だけでなく、ジャーナルにおいてもデータの公開や共有に関するポリシーの整備が進んでいる



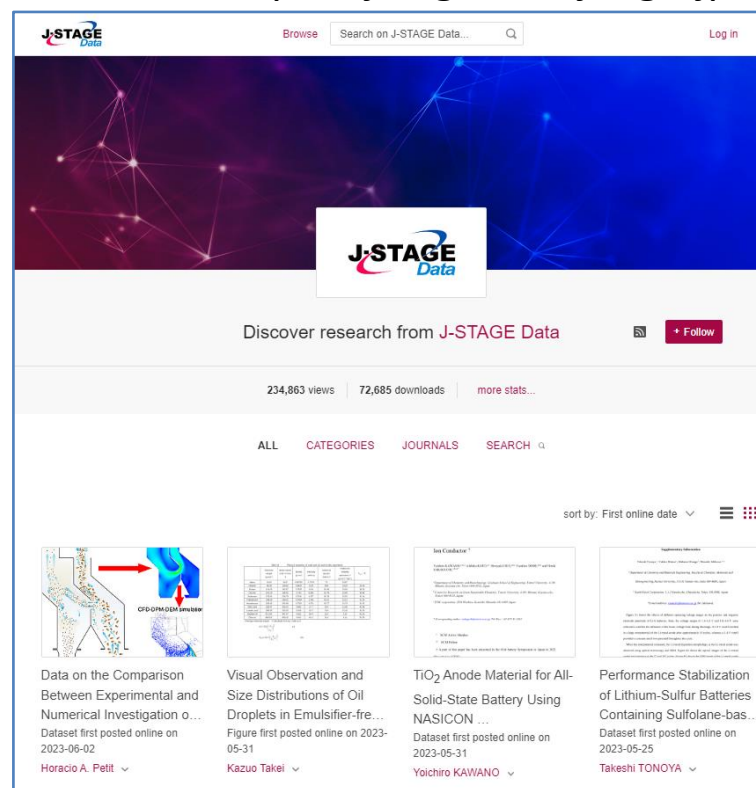
研究者が研究成果論文を発表する際、その根拠となるデータの公開を求められる場面が、ますます多くなりつつある

- 2022年改定「**JSTの基本方針**」においても、「研究データのうち、研究成果論文のエビデンスとなる**研究データは原則として公開**とする」と明記

J-STAGE Data とは

- J-STAGEの登録論文に関連するデータを登録・公開するデータリポジトリ
- 2020年3月リリース
- すべてのデータにはJaLC DOIおよびCCライセンスが付与され、オープンアクセスで公開、ダウンロード・再利用が可能
- ジャーナル編集委員会で査読・承認されたデータのみ公開
- 2023年11月18日時点で39誌から596データが公開されている

<https://jstagedata.jst.go.jp/>



データ画面

The screenshot displays the J-STAGE Data interface for a specific dataset. At the top, there is a search bar and a 'Log in' link. Below the header, a preview image of the data is shown, including a 3D visualization of a classifier and a file named 'ARCHIVE'. A red box highlights this preview image with the text 'データのプレビュー画像'. Below the preview, there are buttons for 'Cite', 'Download all (637.16 kB)', 'Share', and 'Embed'. A red box highlights these buttons with the text '閲覧数、ダウンロード数、被引用数'. The main title of the dataset is 'Data on the Comparison Between Experimental and Numerical Investigation of the Throat Air Classifier', with a red box highlighting it as 'タイトル'. Below the title, the author's name 'Horacio A. Petit, Edgardo Fabián Irassar' is listed, with a red box highlighting it as '著者名'. The description of the dataset is provided, along with 'Experimental conditions' and 'FUNDING' information. On the right side, 'USAGE METRICS' are shown: 8 views, 12 downloads, and 0 citations. Below this, there is a section 'Is supplement to' with a link to another dataset. Further down, 'KEYWORDS' are listed: 'manufactured sands', 'air classification', 'CFD-DEM', 'stone dust', and 'aggregates', with a red box highlighting them as 'キーワード'. The 'LICENCE' section shows 'CC BY 4.0', with a red box highlighting it as '二次利用ライセンス'. At the bottom, there is a 'CONTACT' section with the email address 'hpetit@fio.unicen.edu.ar', with a red box highlighting it as '連絡先メールアドレス'. Finally, the 'COPYRIGHT' section shows '© 2023 The Author(s)', with a red box highlighting it as '著作権表示'.

データのプレビュー画像

タイトル

閲覧数、ダウンロード数、被引用数

著者名

データに言及している論文へのリンク

キーワード

連絡先メールアドレス

二次利用ライセンス

著作権表示

論文とデータの相互リンク

J-STAGE に論文付随データの情報を表示

J-STAGE Dataへジャンプして
論文付随データを閲覧

Simulation of the Classification of Manufactured Sands in the Throat Air Classifier

Horacio A. Petit, Edgardo Fabián Inassar

Data Availability Statement

The data from the comparison between experimental and numerical investigation of the Throat Air Classifier is available online in J-STAGE Data (link here [1]).

Data on the Comparison Between Experimental and Numerical Investigation of the Throat Air Classifier

Download all (637.16 kB) | Share | Embed

Dataset posted on 2023-06-02, 17:31 authored by Horacio A. Petit, Edgardo Fabián Inassar

USAGE METRICS (2)

8 Views | 12 Downloads | 0 Citations

It is supplement to
Simulation of the Classification of Manufactured Sands in the Throat Air Classifier

References (27)

1. DOI - Is supplement to [Simulation of the Classification of Manufactured Sands in the Throat Air Classifier](#)

• Data Availability Statement※

※利用可能なデータの所在等に関する記述

• 公開日
• データタイトル
• 著者名
等のメタデータ

データ
プレビュー

論文付随データ 公開の例

日本気象学会
気象集誌



シミュレーション結果の生データをJ-STAGE Dataから公開
第三者による再利用が可能に

J-STAGE Dataからのデータの公開

Dataset for "On the semidurnal variation in surface rainfall rate over the tropics in a global cloud-resolving model simulation and satellite observations"

Downloaded at 2017-10-06

Switch View | 19 files

3 GB以上の巨大な
データセット

The Anomalous Variation in Surface Rainfall Rate over the Tropics in a Global Cloud-Resolving Model Simulation and Satellite Observations

Abstract

Figure 1: (a) Time-longitude plot of rainfall rate, (b) and (c) spatial maps of rainfall rate at different times.

J-STAGEからの論文の公開

日本質量分析学会
Mass Spectrometry 誌 MSJ
The Mass Spectrometry Society of Japan

論文に示した質量分析スペクトル (グラフ) の生データを
J-STAGE Dataから公開
信頼性の検証やスペクトルのデータベース化が可能に

J-STAGE Dataからのデータの公開

Date of ESI mass spectrum of transferrin

Downloaded at 10-06-2017

Switch View | 3 files

スペクトルの生データ
(csv形式)

スペクトルの生データは、ジャーナルのウェブサイトから
無償で公開されているビューアーで可視化することができる

Electrospray Ionization Mass Spectrometry of Transferrin: Use of Quadrupole Mass Analyzers for Congenital Disorders of Glycosylation

Abstract

Figure 1: Mass spectrum of transferrin showing peaks at m/z 300, 400, 500, 600, 700, 800, 900, 1000, 1100, 1200, 1300, 1400, 1500, 1600, 1700, 1800, 1900, 2000, 2100, 2200, 2300, 2400, 2500, 2600, 2700, 2800, 2900, 3000.

J-STAGEからの論文の公開

プレプリントサーバ「Jxiv」について

COVID-19を契機に急増するプレプリント

医学系プレプリントサーバmedRxivでのコロナ関連論文数の推移

(2020年1月1日～4月17日)

<https://www.medrxiv.org/>

出典: +Evidence Vol.2 No.18 (No. 69) April 2020

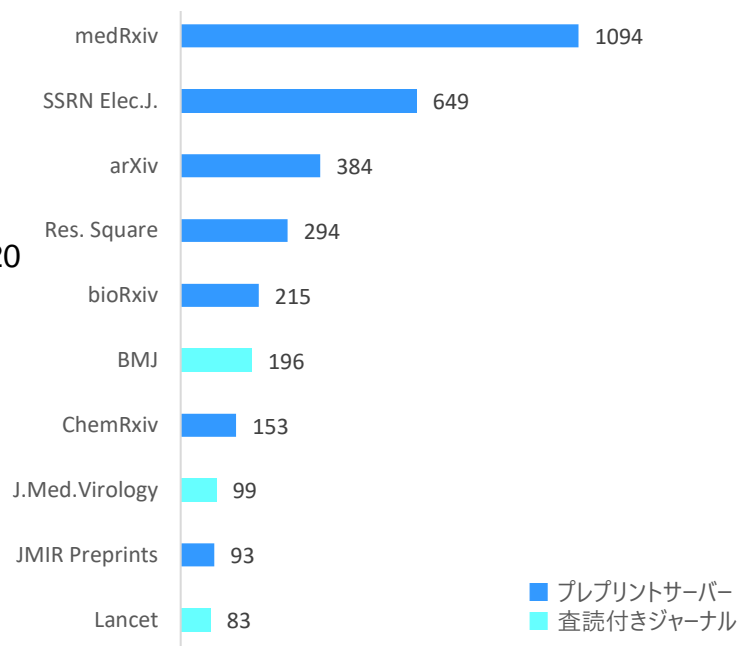


論文データベースDimensionsでの
コロナ関連論文数上位サイト(2020年4月21日時点)

<https://www.dimensions.ai/>

出典: +Evidence Vol.2 No.18 (No. 69) April 2020

コロナ関連論文は上位10サイト中7サイト
がプレプリントサーバ



2022年3月24日より運用開始

日本発の プレプリントサーバ

Jxiv

[ジェイカイク]



- プレプリント（査読前論文）にDOIを付与、オープンアクセスで公開
- 全分野を対象、日本語、英語のプレプリント公開
- 投稿者はresearchmapまたはORCIDのIDを所持する研究者に限定
- 閲覧はアカウント不要、無料で誰でも可能

プレプリントサーバの例

●さまざまな分野

物理学: arXiv (1991-) 生命科学: bioRxiv (2013-)
化学: ChemRxiv (2017-) 医学: medRxiv (2019-)
社会科学: SSRN (1994-)

●さまざまな地域

中国: ChinaXiv (2016-)
インドネシア: RINarxiv (前身: INArxiv:2018-)
ブラジル、アルゼンチンなど: SciELO Preprints (2020-)

プレプリントサーバによる研究成果の早期公開

日本のプレプリントサーバの必要性

- COVID-19等でプレプリントサーバを利用した研究成果の発表、早期の活用が進められ、威力を発揮していたが、日本語で投稿できるプレプリントサーバは現状なかった。
- arXiv等、分野別プレプリントサーバはあるが、海外でも確立されていない分野がある（学際分野等）。

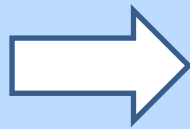
「人文学や社会科学分野では、特定の文化の哲学、歴史、文学、社会、法律、経済等に特化した研究が多いこともあり、当該地域の言語で出版することにより、さらに深い理解と知識の共有が可能となります。」（出典：[筑波大学 F1000との連携プレス](#)）
- 研究分野別プレプリントサーバのみならず、言語・地域別のプレプリントサーバも各国から立ち上がる現況において、我が国に拠点を置くプレプリントサーバはなく、海外から出遅れてしまっていた。

日本発のプレプリントサーバ Jxiv (ジェイカイク)

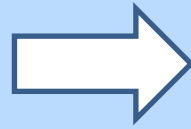
投稿から公開までの流れ



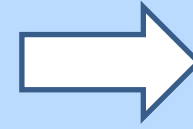
①原稿を投稿



②スクリーニング



③オープンアクセスで公開



④最新状態に更新

効果

- ジャーナルに投稿され査読を経て出版されるのに先立ち、研究成果を公表することができる。
- 迅速な成果公開により研究のサイクル加速、研究コミュニティの活性化を期待。
- 緊急を要する課題については、査読を待たずにプレプリントで議論が進められる。
- オープンアクセスへ貢献することができる。

URL

<https://jxiv.jst.go.jp/>

Jxiv画面



公開画面

全てのプレプリントから探す 分野から探す 利用規約 投稿ガイドライン マニュアル Jxivについて お知らせ

言語切り替え

注意：プレプリントは専門家の査読を経ていない、正誤・可否が確認されていない論文です。その記載・内容はJSTが保証するものではなく、報道機関を含め、研究者以外の方が閲覧される際には、その点を十分にご注意・ご配慮ください。

新着のプレプリント

格子の最短ベクトル問題に対する離散的考察と並列計算アルゴリズム

柏原 真二

DOI: <https://doi.org/10.51094/jxiv.69>

格子基礎簡約 並列計算 Gram-Charlier展開 効率的アルゴリズム

ダウンロード：32 投稿日時:2022-04-27 13:40:52 UTC 公開日時:2022-05-02 09:20:43 UTC

[PDF](#)

Pathogenicity of the omicron variant strain comparison with delta variant strain and seasonal influenza in Japan

Kurita, Junko, Tamie Sugawara, Yasushi Ohkusa

DOI: <https://doi.org/10.51094/jxiv.59>

excess mortality COVID-19 all cause death stochastic frontier estimation NIDD model Tokyo Japan

ダウンロード：15 投稿日時:2022-04-27 04:32:31 UTC 公開日時:2022-05-02 09:17:47 UTC

[PDF \(English\)](#)

コミュニティ型マーケティングの考え方

岩間 崇司

DOI: <https://doi.org/10.51094/jxiv.57>

サービスデザイン コミュニティデザイン 共創 顧客関係性 企業関係性

ダウンロード：76 投稿日時:2022-04-21 17:14:33 UTC 公開日時:2022-04-28 13:29:12 UTC

[PDF](#)

Shortened lifespan induced by a high-glucose diet is associated with intestinal immune dysfunction in *Drosophila melanogaster*



ランディングページ

全てのプレプリントから探す 分野から探す 利用規約 投稿ガイドライン マニュアル Jxivについて お知らせ

jxivadmin

日本語表示画面

ホーム / 情報科学

プレプリント / バージョン1
格子の最短ベクトル問題に対する離散的考察と並列計算アルゴリズム

柏原 真二

東京大学大学院総合文化研究科システム科学系

DOI: <https://doi.org/10.51094/jxiv.69>

キーワード: 格子基礎簡約, 並列計算, Gram-Charlier展開, 効率的アルゴリズム

抄録

格子の最短ベクトル問題は、短、格子ベクトルをいかに効率的に見つけるかという問題である。これまでは格子ベクトルの生成時に置換基底ベクトルに対する係数が一律に分布するというランダム仮定を多くに用い、格子ベクトルが見つかる確率を推測してきた。ランダム仮定は連続的なモデルであり、実際の短いベクトルは離散的に分布しているため同じ格子ベクトルが複数出現することがある。この論文では実験により格子ベクトルの重複について検証する。また基底の評価精度を用いた並列機構における効率的な基底簡約の方法を提案する。

ダウンロード



言語

日本語

English

投稿前にお読みください (PDF)

注意：プレプリントは専門家の査読を経ていない、正誤・可否が確認されていない論文です。その記載・内容はJSTが保証するものではなく、報道機関を含め、研究者以外の方が閲覧される際には、その点を十分にご注意・ご配慮ください。

[PDF](#)

公開済

投稿日時: 2022-04-27 13:40:52 UTC

公開日時: 2022-05-02 09:20:43 UTC

研究分野

情報科学

サイエンス

Copyright (c) 2022 柏原, 真二

[CC BY-NC-ND](#)

この作品は、Creative Commons

Attribution

Non-Commercial

No Derivs

[Facebook](#) [Twitter](#)

英語表示画面

jxivadmin



Archives Areas of Knowledge Terms of Service Submission Guidelines Manuals About Announcements

Q Search

Home / Information Sciences

Preprint / Version 1
Parallel Algorithms for the Shortest Vector Problem from a Discrete Perspective

Kenji Kashiwabara

Department of General Systems Studies, University of Tokyo

DOI: <https://doi.org/10.51094/jxiv.69>

Keywords: Lattice reduction, parallel computation, sieving algorithm, Gram-Charlier expansion

Abstract

Downloads



Language

日本語

English

Read before submitting (PDF) (Japanese)

Caution: Preprints are manuscripts that have not been certified by peer review. JST does not endorse the description or contents of any articles in Jxiv, so for readers who are non-researchers or are in the news media industry, please keep this firmly in mind while browsing them.

[PDF \(日本語\)](#)

Posted

Submitted: 2022-04-27 13:40:52 UTC

Published: 2022-05-02 09:20:43 UTC

Section

Information Sciences

License

Copyright (c) 2022 Kenji Kashiwabara

[CC BY-NC-ND](#)

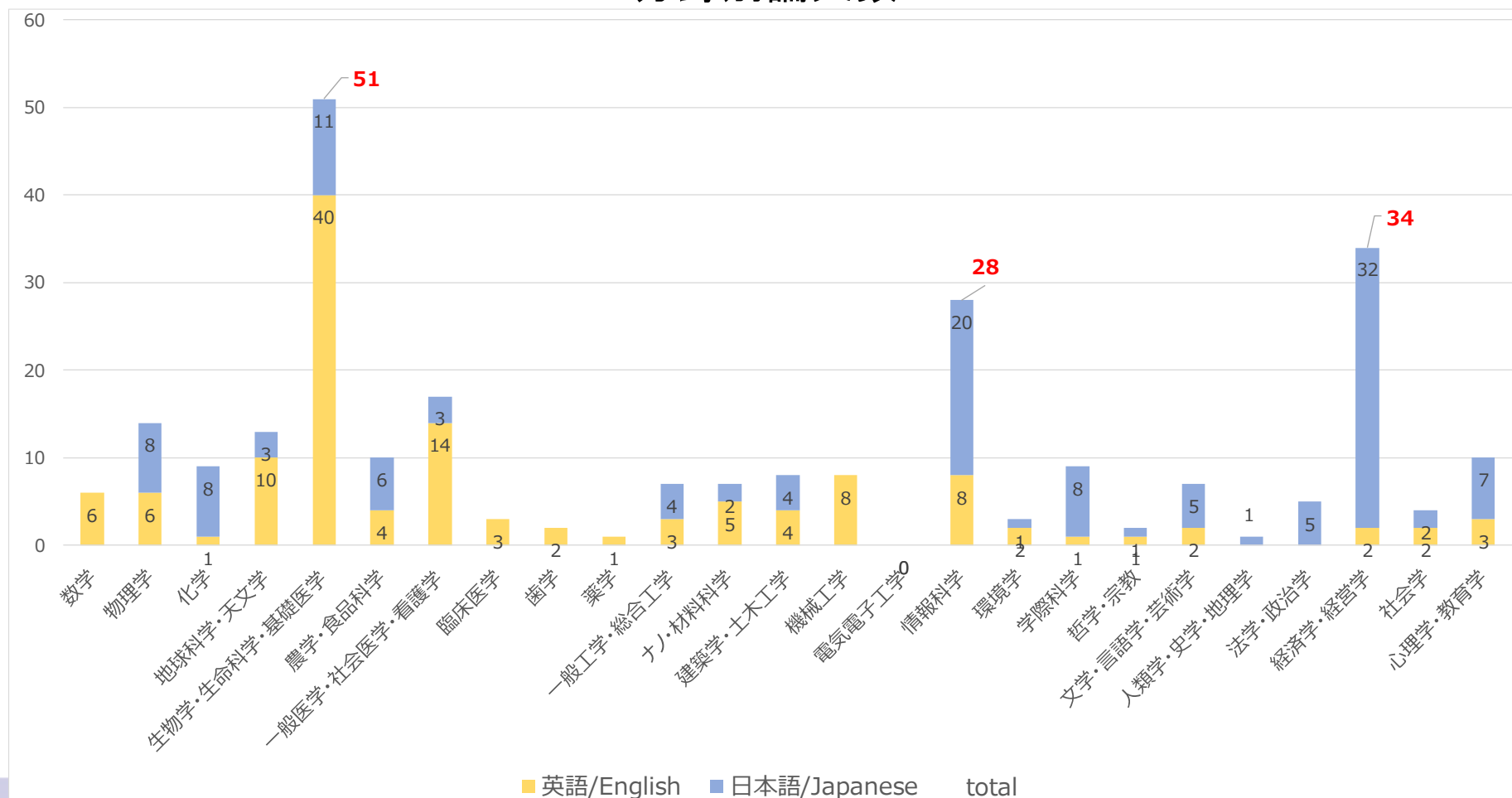
This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivs 4.0 International License.

[Facebook](#) [Twitter](#) [LinkedIn](#) [YouTube](#)

公開論文数(2023.11.5時点)

公開論文数：**259本**

分野別論文数



目次

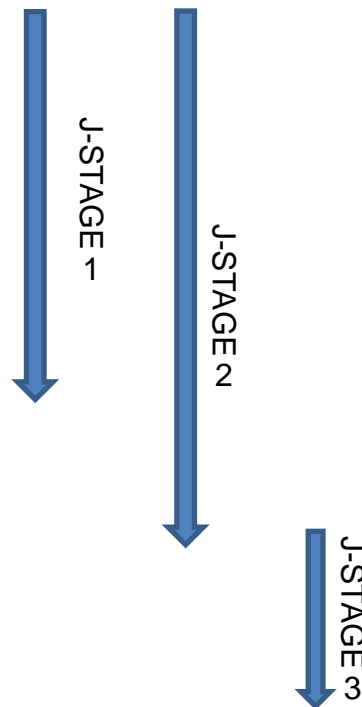
1. 科学技術振興機構(JST)について
2. JSTの情報事業について
3. J-STAGEについて
4. J-STAGE Data、Jxivについて
5. 全文XML化の取り組み

J-STAGEの課題

全文XML化

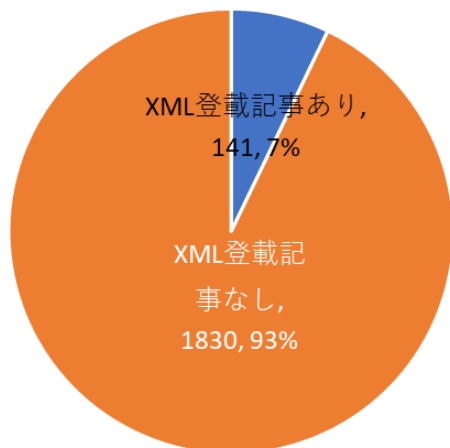
J-STAGEデータ形式変遷

- TeX ?1999-?
- Diov 2002-?
- SGML 1999-2019
- BIB 1999-2019
- XHTML 2004-2012
- JATS XML 2012-



J-STAGEの全文XML化状況

XML記事登載の有無



XML記事登載
カレント誌の7%

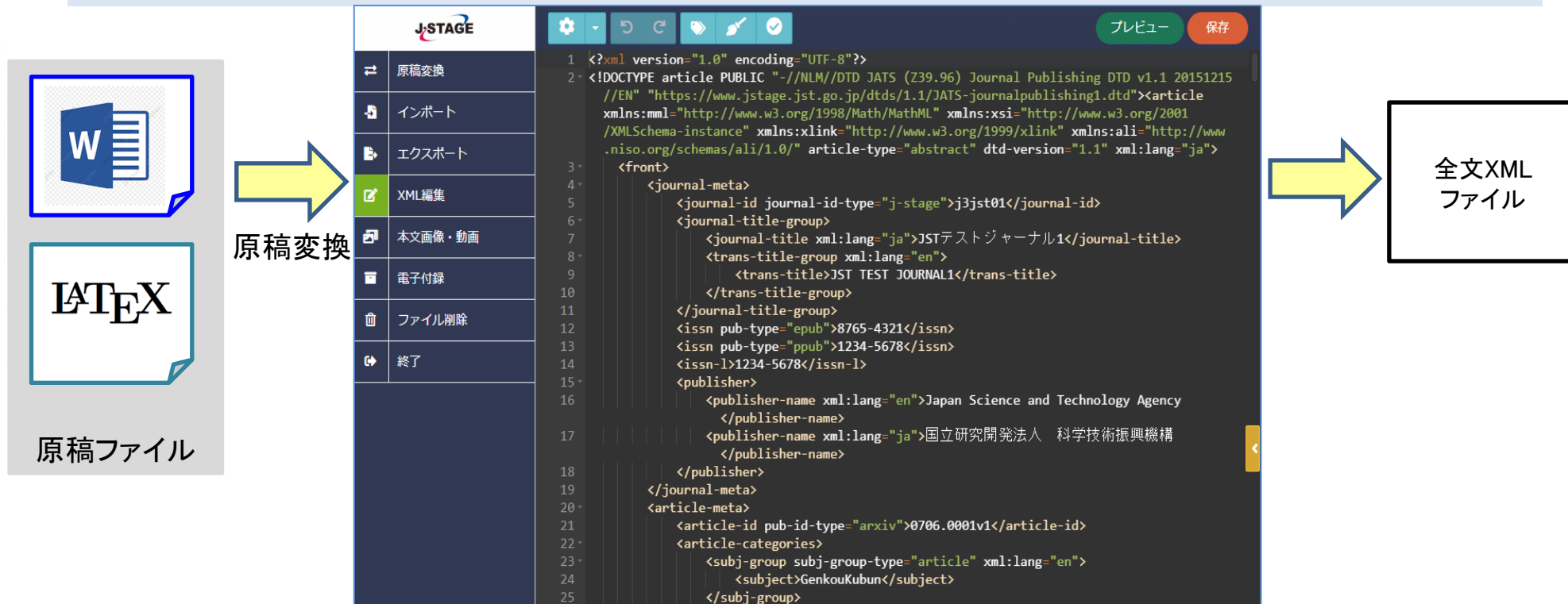
※令和4年度末時点

XML化により実現できること、見込まれる効果

- ✓ 長期保存性(標準化された規格)
- ✓ 他システムとの精緻な連携
- ✓ 機械翻訳
- ✓ 汎用性、アクセシビリティ
- ✓ デバイスに応じた閲覧性(PDF、HTML、ePub等)
- ✓ AI、情報解析などへの応用

J-STAGE全文XMLツールの提供 (2020~)

WordもしくはLaTeX形式の原稿ファイルを元に、J-STAGEに登載できる全文XMLファイルを作成・編集できるツール。

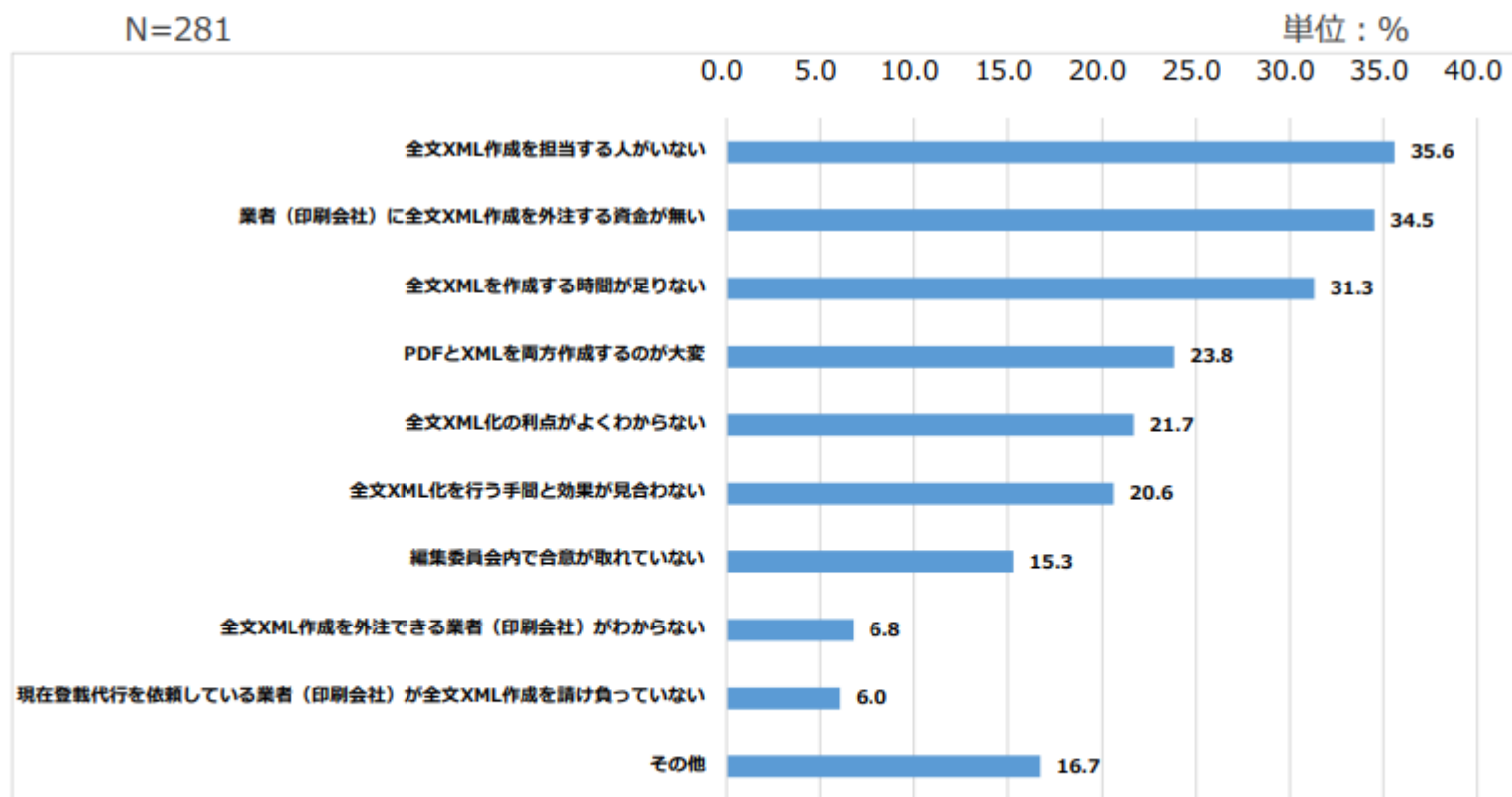


- 原稿ファイルを元にXMLデータが生成される。
- その後ツール上でXMLを確認・編集する。
- ツール内にプレビュー機能があり、J-STAGEの公開画面イメージを確認できる。

■ J-STAGE 全文XML登載で感じているデメリット、全文XML登載を利用していない理由

設問8. 全文XML登載で感じているデメリットや、または全文XML登載を利用していない理由を選んでください。【複数選択可】

● J-STAGEの全文XML登載のデメリットについて、「全文XML作成を担当する人がいない」が35.6%と最も高く、次いで「業者（印刷会社）に全文XML作成を外注する資金が無い」の34.5%、「全文XMLを作成する時間が足りない」の31.3%の順に続いている。



まとめ

- ◆ 科学技術振興機構 (JST) の紹介
- ◆ JST の情報事業の紹介
- ◆ J-STAGE、J-STAGE Data、Jxiv の紹介
- ◆ J-STAGE の全文 XML 化の取り組み

参考資料

◆ 文部科学省ジャーナル問題検討部会 議事録・配付資料

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu29/001/giji_list/index.htm

◆ 科学技術振興機構 (JST)

<https://www.jst.go.jp/>

◆ JSTの情報事業

<https://jipsti.jst.go.jp/>

◆ J-STAGE

<https://www.jstage.jst.go.jp/>

◆ J-STAGE Data

<https://jstagedata.jst.go.jp>

◆ Jxiv

<https://jxiv.jst.go.jp>

ご静聴ありがとうございました